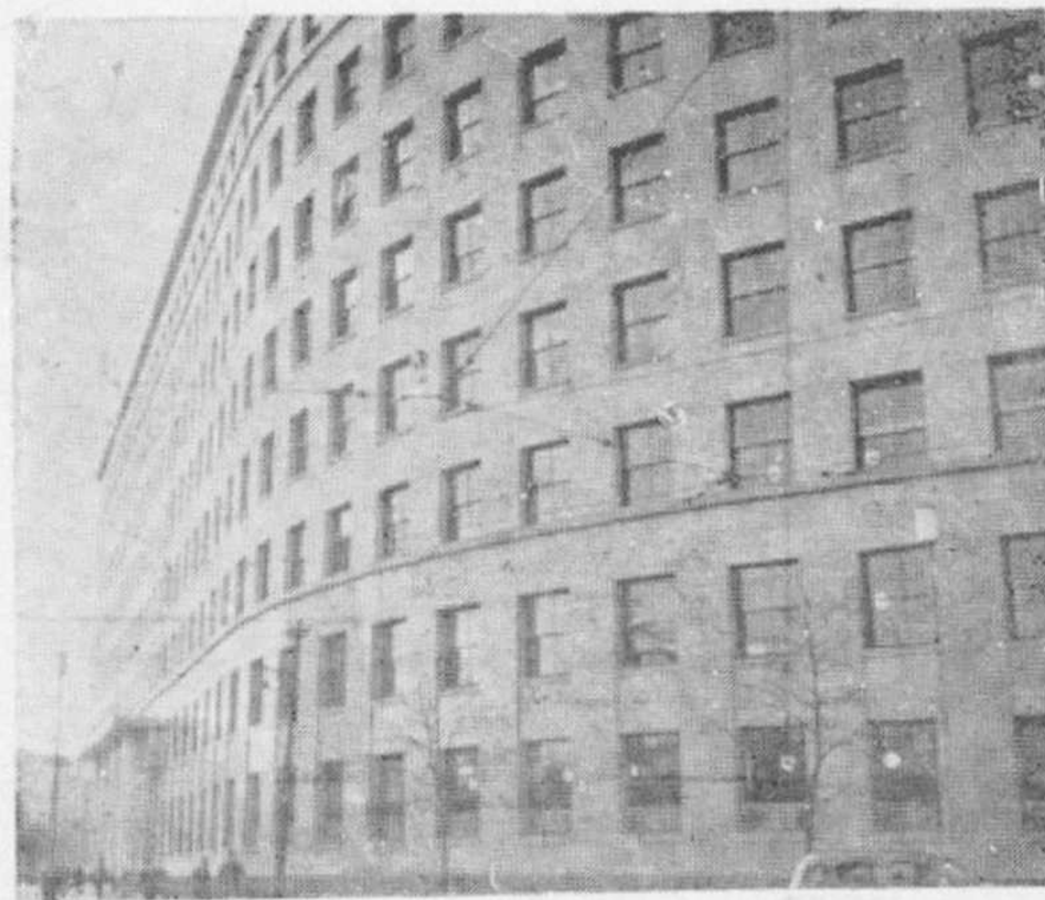
エスペラント

LA REVUO ORIENTA

二月號

Jaro 20 N-ro 2

昭和七年一月十二日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
昭和十四年一月十日印刷納本 昭和十四年二月一日發行 第七年 第二號



Februaro 1939

財團法人 日本エスペラント學會發行圖書

内外發行エスペラント圖書のくはしい目録は往復はがきでお申込み次第お送りします

學習書・教科書・辭典

		定價 圓	送料 錢
エスペラント捷徑	多少外國語の素養ある人のため最良の獨習書	0.50	6
エスペラント講座	外國語を全然知らぬ人にABCから敎へる講座	0.50	6
エスペラント案內	エスペラントとは何かから始め文法全般まで	0.30	3
新撰エス和辭典	語數豐富,譯語正確.携帶至便 上 0.80 6 並	0.60	6
新撰和エス辭典	見出語數6萬,出典明示,附錄豐富,印刷鮮明	2.50	6

點字エスペラント文法と小辭典	1.00	6	エスペラントの鍵	0.05	3
エスペラント初等讀本	0.30	3	エスペラント講習用書	0.30	3
エスペラント中等讀本	0.30	3	エスペラント短期講習用書	0.20	3
エスペラント童話讀本	0.20	3	イソップ物語 深切明快・脚註付	0.25	3

ザメンホフ讀本	ザ著作抜萃 I 翻譯篇, II 原作篇, III. ザメンホフ論	各 0.20 合卷 0.50	3 6
エスペラント醫學文範	醫學論文の好模範,醫學生の講習會用に最好適	0.40	3
エスペラント文例集	重要單語720造語例文例 0.80 6 函入カード版	1.50	14
新撰エスペラント手紙の書方	例文豐富,書翰百科辭典の觀,370頁	1.20	10
エスペラント日記の書方	365日.1日1例文,社會萬般の記錄,譯註付	1.50	9
エスペラント發音研究	エスペラント發音上の疑問の點は何でもわかる	0.30	3
リングヴイ・レスポンドイ	ザメンホフの質疑應答集,學習者必備の書	0.50	6

エスペラント文庫

ザメンホフの生涯 0.40 6　國際運信の常識 0.50 3　エスペラントの會話 0.40 3

エスペラント文藝讀本

スラヴ篇 ツルゲネフ,チェホフ	0.25	3	フランス篇 ドォデ,ユゥゴォ等	0.25	3
沙翁悲劇篇 ハムレット他3	0.30	3	北歐篇 付「アンデルセンとZ」	0.30	3

對譯詳註書

マテオ・ファルコネ メリメ作	0.30	3	代理通譯 ベルナール作	0.30	3
ハイネ詩集 珠玉の詩40篇	0.30	3	魔法使 ザイデル爐邊物語から	0.30	3
レイモント短篇集 2篇	0.30	3	エスペラント童話集	0.30	3

愛あるところ神あり　トルストイ作。附「エス語研究書解題」。282頁　1.50 9

エスペラント書き文獻

日本書紀　I 神代紀・神武天皇紀 II 綏靖天皇紀——應神天皇紀 III 仁德天皇紀——宣化天皇紀 IV 欽明天皇紀——皇極天皇紀 I, II, III 各 1.20 9　IV 1.80 10

惜しみなく愛は奪ふ 有島武郎著	0.75	6	ヴェルダ・カルト 石原榮三郎作	1.00	6
中村博士遺稿集 原作,翻譯	0.70	6	海神丸 野上彌生子作	0.40	3
東洋の俠血兒 長谷川伸作	0.45	6	倫敦塔 夏目漱石作	0.15	3
霧の中 山本有三作ラジオ劇	0.15	3	日本民族の起源	0.10	3
佛說阿彌陀經	0.15	3	日本小史 野村佐一郎著	0.20	3
大學中庸 特 0.75 6 並	0.60	9	孝經	0.30	3

歐羅巴觀察廻り 上 0.95 1 並 0.85 10　國語擁護を論じて國際語に及ぶ 0.20 3

本鄉元町1丁目・振替東京11325番

エスペラント
LA REVUO ORIENTA
• Februaro 1939 •

表紙: El la japana arkitekturo—La nova domo de la Ministerio de Ŝtataj Fervojoj
扉: 三宅史平・歴史の教訓
Mijake-Ŝ.: La historio instruas

LA ENHAVO

Speciala Legaĵo

Literaturo kaj Scienco

Lingva Studo

Lernigo

Movado

Kroniko

エスペラント

二月號

歴史の教訓

去年の10月，ヨーロッパが，かれら自身のうえにのしかかつた戰爭の夢魔におびえているとき，全世界の注目をあつめて，2人の支配者が，ゴデスベルグで會談した。――第3帝國の指導者と大ブリテン帝國の宰相と。それについで，ミュンヘンで，もう2人の巨頭――フランス國防内閣の首腦者と，ファシストの國の獨裁者とを加え，會議が行われた。そして，ヨーロッパのうえから，ひとまず，黒い手が去つた。

そのミュンヘンの4巨頭會議で，ヒトラーはドイツ語で，チャンバレンはイギリス語で，ダラディエはフランス語で話し，ひとりヒトラーは，その3つの外國語を，あれこれと使いわけた。したがつて，この歴史的重大會議にただ1人えらばれた通譯者シュミット博士の奮鬪はめざましかつた。この光景は，ヨーロッパの諸新聞に對して，もつとも深刻な瞬間における，もつとも嚴粛なカリカトゥロの素材を與えた。

このことは，當事者自身に對しても，大きな印象を與えずはおかなかつた。チャンバレン首相は，ゴデスベルグの會談について，議會へ報告した言葉のなかに，つぎのように述べている。

「……通譯者をとうして話すことはたやすくはなかつたし，また，わたくしの言つたことが，ヒトラーに，はたして，よく了解されたか，いなか，わからなかつたため，わたくしは，かれの新しい提案について，わたくしの意見を書いて，それを，會談を，ふたたび始める，すこしまえに，かれへ渡したほうがよくはないかと考えたのであります……」

言語の相違が，民族間の不和の，非常に大きな原因であるとゆう説明が，ひとつのおとぎばなしであるとは，今日の青年層の常識である。だが，エスペラント宣傳 ABC の材料のように，一應は見える，うえのエピソードは，今日のわれわれに對して，なにか，新しい教訓を與えていないか。

すくなくとも，現在の事變にあたつて，われわれは，エスペランティストのあいだにあつては，ヨーロッパ人も，日本人の立場を，よりよく知つてくれることを，はつきり知つた。日本の友が，盟邦ドイツ・イタリア・滿洲國のみでないことを，われわれは，知つているのである。そして，それは，われわれの力で作つたのである。

このことを考えるとき，新しい東亜の建設の出發點に立つて，われわれは，エスペランティストであることに，誇りと自信とを持つてよいのである。

同志よ，胸を張つて歩け！　(M-Ŝ.)

La Revuo Orienta 第20年記念特輯

誌上座談會「そのころを語る」

2 學習の動機・方法—挿話—ホマラニスモ—民族意識—外國語問題(續)—學習の利益—海外通信

三宅 1月號の「ホマラニスモ-民族意識-外國語問題」にひきつずき，他の問題をさし出すべきでありますが，おくれて御參加になつた方がございますので，まず，それらのかたがたを紹介し，いままでに出した問題に對するお答えをうかがつたうえで，つぎに移りたいとおもいます。

最初に谷山さんにお願いします。學會に御入會になつたのは，21歲で，大谷大學豫科2年に御在學中でありましたが，現在は，眞宗大谷派正蓮寺住職布教使として，弘前市にお住まいになつており，この北國の町で，佛教とともに，エスペラントのためにも弘道のお働きをおつずけくださいます。

谷山弘薰 歐洲大戰後の平和思想に共鳴し民族自決主義に双手を擧げて贊成していたものですが，他面民族自決が逆に民族對立意識を釀成しつつあることを感じていた折から，ザメンホフ博士のホマラニスモに觸れ，民族間の第一の障壁たる言語問題がエスペラントに依つて解決されると聞き，眞の世界平和實現の最上實器とばかり，エスペランのト學習を始めました。今にしてみれば，世界平和の障害は溯れば，ホモホミンループスエストゥであり，民族的利己主義であつて，言語など末の末でありますが，しかし200年も經つたら，自然に完全な「希望者」の言葉が生れるでしよう。ベルリン——東京を2日間で飛ぶコンドル號によつて見れば，200年と見て早くないでしよう。エスペラントは，そのより早き實現への推進力です。

エスペラントを習つたのは，三高エス會の櫻田一郎君(當時三高2年，現在工學博士)が講師，教科書は，5錢の「エスペラントの鍵」でした。1週間放課後の講習會で，100人あまり出席，直ちに谷大エスペラント會を創立，krestomatio を用いて，週一回の研究會を持ちましたが，參加者は10人たらずでした。

三宅 つぎに藤間さんにお願ひします。藤間さんは，そのころ，中學から早稻田への中間時代で，20歲でいられました。いまは，大阪朝日新聞編輯局校閱部にお勤めになつております。大阪エスペラント會の會合などには，お顏をあまりお出しにならないようで，『日常のエスペラント運動』なるものには，あまり御興味をお持ちになつていないのではないかとおもわれますが，日本のエスペラント運動史を，書誌學的に御研究になつておりまして，その御研究の廣く，深いことは，敬服のほかはございません。R.O. の「運動三十周年記念號」の「我國エスペラント移入の三系統」や昨年7月號の「小坂先生の生誕と日本最初のエス文献」などは，それの，ほんの一端だけをお示しになつたものであります。

藤間常太郎 中學4年のころ，2-3の同級生と外國切手蒐集のブルテーノをとつていましたが，その最終ペイジに，いつも『世界どこでも通用するエスペラント』の辭典や，獨習書の廣告が出ていました。こんな便利なものがあるのになぜ苦しい英語を一生懸命勉强せなければならないか？ と疑問を起し，思いきつて英語の先生に質問を發して，大いに叱られました。しかし，エスペラントに對する好奇心といおうか，淡いあこがれのようなものを懷いたまま中學を卒えました。

大正9年7月21日から30日まで，大阪盲

啞學校で，岩橋武夫氏（盲人哲學者，大阪ライト・ハウス館長，燈影女子英語學院長）から講習を受けましたが，大阪高商エスペラント會創立者の天野忠愛，一高綠星會の會員で，のち京大社會學科を卒業した中井虎一，磯崎清海の3君と私の4名だけが，途中から岩橋氏のお宅に移り，中等級を受け，殘餘の人は，も一人の講師，大阪の元老高尾亮雄氏の指導を受けていました。

エスペラント運動は，純粹言語運動としては，一定の限界がある，この限界に滿足せず，interna ideo de Esperanto を奉じて，一種の思想運動に乘り出したのが，エスペラント界におけるホマラニスモの運動です。新小川町の學會兼小坂邸に每水曜集つた熱情的な一聯の學生達が宗教的とまでいいたいくらいな氣持で，一致團結して interna ideo を昂揚し，ブーローニュ宣言，並にその信奉者を憤慨罵倒しました。そのころは大戰後で，世界が rekonstruado に忙しく，大戰の反動として，平和主義，人道主義が世界を支配し始めました。またデモクラシーの思想とともに，民衆運動も油然と勃興し始めました。トルストイ，ロマン・ローランなどのヒューマニズムの潮流も滔々と押寄せて，「白樺派」が大いにヒューマニズムのために努力しました。この思想的動搖期に際して，ただ學會で，狹くるしい一室で，エスペラントでだべつたり，輪讀をやつたりばかりするには，學生達の血が熱すぎた。エスペラントに關して思想的な何ものかを切に求めた。ホマラニスモが，この對象となつたのは當然すぎます。ホマラニスモを獲得するや否や，すべて，その前に說伏せる勢いで，エスペラントそのものとともに合せて，ホマラニスモを說きまわりました。しかしホマラニスモは，あまりに漠然とし，また抽象的なものでした。やがて日本の思想運動も各分野が明瞭劃然となるにつれて，ホマラニスモの鬪士もその方に走つたり，また大學や專門學校を卒業して職に就いたりした結果ホマラニスモは學會から消えて，アチューロの時代が來たわけです。

三宅 つぎに，おなじく大阪の進藤さんにお願いします。エスペランティストで，進藤さんのお名まえを知らない人は，まずあるまいとおもいます。進藤さんは，日本のエスペラント界で最もすぐれた organizanto といつてよいかたで，進藤さんの指導のもとにある——こうゆう言葉で呼ばれることを，お嫌いになるとおもいますが，事實は，それにあや

座談會參加者（入會順）

大正7年（1918年）

姫路高校教授 多田齋司
日本語教授 古澤末治郎
カニヤ書店主 中原脩司

大正8年（1919年）

札幌控訴院判事 堀　眞道
京城帝大教授 長谷川理衞
吉川貫夫
言語委員 川崎直一
伊井　迂
輸入會社社員 進藤靜太郎

大正9年（1920年）

東洋電機技師 保坂成之
紡毛研究所 大山聖華
JOAK國際課 成田重郎
言語委員 岡本好次

京都帝大教授 文學博士 澤瀉久孝
三宅史平
滿鐵機械課 尾花芳雄
大朝校閱部 藤間常太郎
溫室園藝家 木戶又次
千葉醫大教授 醫學博士 鈴木正夫
三重高農助教授 野知里慶助

大正10年（1921年）

秋田圖書館司書 中田勝造
岐阜高農教授 渥美樟雄
國語協會編輯主任 石黑　修
東京府立七中 多羅尾一郎

慶應大學教授 園　乾治
馬場商事常務 馬場淸彥
大谷派布敎師 谷山弘藏
鐵道省車輛課 根本　潔
國語研究主筆 菊澤季生
東京帝大講師 東京文理大講師 理學博士 丘　英通
工業會社會計 下村芳司

大正11年（1922年）

上野孝男
鐵工所係長 中西義雄
東京帝大教授 醫學博士 西　成甫
婦人子供洋服 山田　弘

まりないのでありますから，そうもうすのでありますが——その大阪エスペラント會が，つねに淸新潑剌な存在をつゞけておりますのは，進藤さんの腕——とゆうよりも，さえた頭によるのであります。そのさえた頭と齒ぎれのよいエスペラントとで，われわれ學會の事務擔當者が，大會のたびに，學會總會で，『やつつけられて』いることは，大會に參加されたかたは，どなたもよく御存知のとうりであります。なかなか辛辣なことを，びしびし，遠慮なくおつしやるので，聞いていて，われわれを氣の毒がつたり，また，反對に，3 斗の溜飮をお下げになるかたもあるように見受けられますが，進藤さんのは，公正なる立場をおつしやるのであつて，われわれとして，面子を失うばあいもございすし，また，現實の問題として，かならずしも，おつしやること全部を正しい——あるいは可能だと認め得ないばあいもないではありませんが，これが，日本のエスペラント運動の正常な發展を遂げるうえに演じて來た役割は，たしかに大きいものであります。進藤さんは，また，國際エスペラント運動の組織については，それの歴史および現狀について，もつともすぐれた知識と見識とをお持ちになつております。その意味で，學會では，學會の代表として，IEL の komitatano になつていただいております。

協會への御入會は，大正 8 年 8 月，滿 17 歳のときで，東京高商の豫科にいらつしやいました。現在は，洋酒食料品輸入卸合資會社進藤商店の社員，商都の少壮實業家として御活躍になつています。

進藤靜太郎　動機は，母校成蹊學園長故中村春二先生のお勧めによります。學園内專門部，實務部，中學生徒有志約 5-60 名のため，園長自ら課外隨意の講習を發起，當時の協會に講師の派遣を乞い(？)，同年春大學を了えられた淺井惠倫氏を迎えました。私は中學卒業後もなお同園寄宿舍から通學していましたので，參加の機會を得ました。

淺井先生の教授法は，今日のいわゆる rekta metodo で，新しく，かつ熱心そのものの授業ぶりに，思わず知らず惹きつけられました。毎週 2 回(？) 3 ヶ月にわたり，1-2 回，高商の授業のため缺席したほか，できるだけ前列に出て懸命に先生の口，眼を注意して，聲をはりあげて習い(第 2 人とともに)必ず兄弟で復習しました。

この學習の第 1 歩が自分に大變よかつたことを，いまもなお淺井先生に對する感謝とともに深く感じます。

教科書は勿論なく，筆記もなるべくせず，實際的な口授(黒板を利用)で，まず最も大切な語感を基礎的な構文とともに自然に習熟せしめられたように記憶します。筆記は遺憾ながら，すでに見つかりません。

この教授法，この講師，しかも普通の校長とゆう觀念では，到底想像できぬ故中村園長の奬勵と庇護の下に夢中で動機など省ず習いました。

この初等講習ののち，本を求めに，中澁谷の協會黒板先生のお宅へまいりましたが，千布氏「全程」以外，字引すらなく，ほとんど 1 年以上，「全程」巻末の語彙をたよりに，京橋丸善に唯 1 册あつた Lawrence の "First Lessons" を獨習，大正 9 年 9 月，はじめて學會の初等研究會に出て，"Duoble tri estas ses." の duoble と副詞になるのを知らず困りました。

ホマラニスモは，10 年夏くらいに始めて，すこし識りましたが，なにぶん本がないので，寫本などしてひととうり知りました。今でも決して充分咀嚼し得ていないかも知りませんが，ある方面から攻撃されるとうり，ある種の迫力はないが，たしかに立派な精神だとおもいます。この精神は，朗らかさに缺けたところがあるかも知れませんが，他面，苦勞を積んだ跡は，それだけ歴然としています。ことに言語とゆう實際的活路を備えていることは，おうきな强味です——決して，とうり一遍のお座なり談義や，空念佛ではありません。

まだ何等根據はありませんが，この精神は，決して Boulongne 宣言と相容れぬものでもなく，したがつて，ザメンホフ博士の第 2 回萬國大會演説の 1 部も Boulongne 宣言を否定するものでないと信じます。なぜならば，このような大精神は，抱擁力のもつと大きいもので，偏狹一徹なものではあり得ないから

です。

したがつて，わが國の八紘一宇的大精神によつて，この主義の明朗な發展を期し，あわせて，その動機のうちに持つ，血のにじむような，歴史的忍苦を忘れず，もつてエスペラント普及運動の支柱としたいとおもいます。

外國語の問題については，環境，殊に學校の性質上，外國語，特に英語の苦勞は比較的深く，エスペラントに期待するところが大きかつたとおもいます。

私の學習の動機のうちには，たしかに民族意識，特に郷土意識があります——標準語の假面のもとに，いわゆる關東辯の侵略に對しても，強い反感を抱いているくらいですから。

三宅　つぎは伊井迂さん。これが磯崎巖さんの plumnomo であることは，かなりひろく知られているようです。非常な熱情家で，青年客氣の熱情——こうゆうふうにもうしますと，獨特の「哄苦笑」——laŭta amara rido をなさるでしようが，その熱情の溢れるままに行動されたことから，御一身に，禍いをこうむられ，そのため，自然エスペラント運動のうえにも御自粛をおねがいしたようなこともありますが，エスペラント運動に對する御熱誠の點では，すこしもお變りになりません。情熱的な詩歌の才能と該博な知識，それらの結晶として，萬葉，古今そのほかからの飜譯と原作詩とをあつめた「緑葉集」，談論集「エスペラント學事始」の御著述があります。

中學時代に，學習をおはじめになり，そののち，いろいろ變轉を經て，ただいまは，熊本にお住まいになつて，女子商業と女子職業學校の囑托をなさつています。

伊井迂　ふとした機縁では，中學２年の修身の時間に野崎又太郎先生からエスペラントのことを聞きました。それが，深く記憶に殘つております。私は，すでにまえから，骨董屋の瀬崎のおつつあんからエスペラントのことを聞いており，同級の森田可好は，「中學世界」で勉強していました。だから，２人は，先生の話を聞いて意を強くしました。それで，これが記憶に殘つたと思ひます。野崎先生の父君は地方の有力者で縣の收税課長だつた野崎萬三郎氏で，地方のためにはいろいろ盡され，備作惠濟會とゆう少年教護と司法保護の社會事業團體も氏の創立でした。我々の野崎先生はどこでエスペラントを知られたか，私はまだ知りませんが，往年の教養ある岡山人はたいていエスペラントのことは知つていました。岡山の古いエスペランティストでは，神官の中山氏や，社會事業家の河本氏がありました。赤城氏，村本氏については，人のよく知るところです。ここに私の興味をそゝるのは，岡山のエスペラント運動と社會事業との因縁です。岡山のガントレット氏にエスペラントを學ばせた金澤のマッケンジー氏は，孤兒院事業の功績で綠綬褒賞を授與されていますし，野崎先生の父君の惠濟會には，私の父も參與していました。また，この惠濟會の傳統をひく三門學園の園長は，のちに私と一緒に，熱心にエスペラントを研究した山田貞元君の父君でした。石井十次氏の岡山孤兒院や野崎萬三郎氏の惠濟會で日本の兒童保護事業の歴史に獨自の足跡を留めた岡山が，日本のエスペラントの歴史に先驅的役割を果したこと，および，のちにエスペラントに熱中した我々が大抵岡山の兒童保護事業の流れを汲んでいることは不思議な因縁です——野崎先生の子息も我々の同窓で，やはり一緒にエスペラントを勉強しました——が，この因縁については，中學時代には別に氣附きませんでした。

スタンレー・ホールは，15歳を第２の誕生と呼んでいますが，私は，ちようどその年からエスペラントを學びはじめ，習得とともに，それまで，少年の身に解き得ない精神上の煩悶にとらわれていた私は，生れかわつた思いがしました。

傲慢で憂鬱な私には，親しい友は山田貞元君１人でした。同君はすなおな，知識欲の盛んな，趣味の豐かな益友でした。私に多くの有益なことを敎えてくれました。私も何か敎えなければならぬ，そしてエスペラントを敎えました。それから，この言語は，彼の趣味の友達のあいだに擴つてゆきました。映畫の友，寫眞の友等のあいだに。かくて同窓から多くの熱心な同志が輩出し，あの懷しい潑剌たる岡山エスペラント會の若者等となりまし

た。この經過のうちに，私はつぎの三點に思いあたります。1.ふとした機縁の底に必然の流れがあつて重要な意義を持つこと。2. 第2の誕生たる青春の苦惱との結びつき。3.親しい友から友への普及の力強さ——この三つであります。

ザメンホフ博士が，一方に言語形式，一方に道德原則を提起したことは必然です。道德問題も，言語問題と同じく，充實した內容を盛ることが，のちの人々に委されています。

エスペラントは補助語と呼ばれますが，私はこれを補助貨幣とくらべてみました。言語界の本位貨幣，あるいは，正貨準備は何か，諸種の自然語もやはり補助語にすぎません。本位語は，人間社會の充實した文化內容と，諸言語を貫く普遍の原理ではありますまいか。エスペラントは，それを教えています。

日露戰後の困難な戰後經營の論議は，少年を憂國慨世家にしていた。歐洲戰時の國際正義と文化擁護の教說は，これに更に熱情を加えた。——私がエスペラントを學び始めたころの氣運は，これでありました。

三宅　多羅尾さん。多羅尾さんは，長らく，學會の評議員をなさつていたかたで，銀座のかつての會話の會アルジェンタ•クンシードのhetmanoとして，後からの人々を御指導になり，その深切な御指導ぶりとおだやかなお人柄とで，接する人すべてに，大變評判のよいかたであります。御職業は，府立第七中學校教諭，英語をお受持になつております。

多羅尾一郎　僕のエス語者としての年齡は學會の年齡に等しい，ゆえに，學會が今年20歲になつたから，僕もエス語をやり出してから 20 年になつたのだな，と思うと，いまだに下手くそな自分がつくずく嫌になります。あのころは若かつた，まだやつと中學校を卒業した18の少年でした。O'Conner の "Student's Text Book of Esp." とゆう本を父の本棚から引ばり出して盜み讀みしたのが，そもそもの病付きで，中學で習つた南日氏の英作文教科書の一二卷目を獨自でエス譯したことを覺えております。その年，ふらふらと青山學院に入學した秋に，世界日曜學校大會が東京で行はれることになり，かゝる時に，エス語のようなものは皆知つておればと，川尻正修とゆう先生が，僕等のクラスに座談的に話されたのが，動機になつて，同級生松本正雄(現在は平凡社社員)，大伴俊（現在は府立八中教諭)と僕とが，何處かで聞きこんで，神田猿楽町押田德郎氏方のエスペラント社へ講習を受けに通い出しました。それが，大正 9年 11 月末だつたでしよう。當時の先生は，小坂，千布兩先生と，故松崎克己氏で，ときどき會話にシェリシェフ氏が見えました。松本と僕は，豫備知識を前記の本で得ていましたので，初等高等兩講習とも張切つて受けたものでした。翌年青山學院に磯崎嚴が入學したのを幸い，青山エスペラント會を創立，聖書學者比屋根安定先生やヘブライ語學者左近義弼先生等が，大いに獎勵してくださいました。エスペラント宣傳大講演會もやつて，ラムステッドさんのお孃さんに餘興にピアノをひいてもらつたことを覺えています。講習會もたびたびやりました。後年，仙臺の一高でエスペラント會ができたとき，會長にかつがれた伊坂辰次郎君も青山時代の僕等との關係から考えると全然ぽつと出でもなかつたのです。青山學院は，夜も日も英語でなければ明けぬところでしたから，宣傳もかなりむつかしかつたが，それでも 5-6 年間は存續しました。2 年下の浦野辰雄君（たしか新潟中學の先生です)が卒業するまでつゞいたはずです。

僕のエスペラントをやつた動機は他のかたがたもそうでしようが，scivolemo からで，別に後程になつても homaranismo とかザメンホフ宗にも興味を，現在にいたるまで持ちませんでした。でも最初はエス語熱をあげて學生帽の横章の代りに綠星章をつけて，このあいだ戰死された木崎宏さんにおだてられたりしたものです。當時かなり交際した人々は，家が近かつた故大場海軍少佐，現在朝日新聞にいる椎橋好君等でしたが，何盛三氏も，學校の近くであつたので，晝食の休みに松本とよく訪問し，ここにあつた極東エスペラント書院で，ときどき本を買つたものです。身體が病弱だつたので，夜分の外出を母から禁じられていたのですが，それでも何とか口實をもうけて，新小川町の小坂先生の家の學會へ

ときどき行きました。當時，井上，堀，長谷川氏等も角帽で，松崎，進藤，由里氏等も商大生，栗飯原君は慶應の驛夫帽，川崎君は長髪の早大 man，本當に今昔の感があります。

三宅 保坂さんにお願いします。保坂さんは，おはじめになつたとき，19歳，鐵道省車輛課にお勤めになつておりました。三石さんとともに，創立當時の學會の事務の方をお受持ちになつて，大變熱心にお働きになりました。そのとき，毎月，雜誌の封筒の宛名をお書きくださつたことや，そのほか，いろいろな雜務をお引受けになつて，お働きくださつたこと――そうしたじみなお仕事，かくれた御努力が，今日の學會を築きあげるために，缺くことのできない，大きな要素であつたのであります。こうした，めだたない人柱が基礎になつて，はじめて，われわれの運動は完成されるので，こうした努力が要求されることは，エスペラント運動が，當時にくらべて，非常に成長した今日にあつても，また將來にあつても，變りのないことであります。

保坂さんは，現在は，東洋電機製造株式會社技師として，設計課にお勤めになつていられますが，學會評議員として，また横濱エスペラント協會會長として，エスペラントに對し變らぬ熱意をお持ちになつております。

保坂成之 大正8年8月18日と記憶していますが，正午退けのころで，現學會理事の三石五六氏と一緒に逗子の海水浴に行く汽車の中で，同氏から，はじめてエスペラント語とゆうものを聞きました。ライオンのことを leono といい，鳩のことを kolombo とゆう，この二つの單語を教えられたのであります。非常に暑い日でありまして，上の二つの單語を聞いたのは，ちようど汽車が品川驛の構内へ進入して機關車の横を徐行していたのを今でも，しつかりと憶えております。

その年の 11 月ころから新小川町の學會へ行くようになり，直接小坂さんから教えていただくことになつたのですが，ある日曜日の午後，學會へ行つたところ，小坂さんが風をひいて熱のため大變苦しそうであるにもかかわらず，床の中で雜誌の原稿を書いていられるのを見て，子供心にその熱意に非常に胸を打たれ，エスペラントを眞劍に考えるようになりました。

ずうつと小坂さんに教えていただきましたがそのころは教科書も完備していなくて，最初にいただいた教材は小坂さんが，自分で印刷された謄寫版のもので，“Patro kaj frato.” “La rozo apartenas al Teodoro.” といつたものが書かれてあり，後日本エスペラント社から發行された「模範練習讀本」の前身であります。

當時は，なおエスペラントとゆうものを餘り世間で知らなかつたためか，話せば，その内容について，一應は熱心に耳を傾けたようで，普及上，別に特別な困難はなかつたようですが，なかには共產主義運動と同一に視たり，あるいは樂器の名稱と思つた人達もありました。

Lingvo と homaranismo とは絕對にあい離れるものでなく，homaranismo があつてこそ，lingvo が，眞に意義あるものと信じます。

日本に來た外人には，ぜひ日本語を使つてもらいたく，國際會議等の場合には，ぜひエスペラント語を使用してもらいたいとおもいます。われわれは，正しい日本語を守り，イギリス語を國內から驅逐し，アングロ・サクソン民族に日本語とエスペラント語の力を知らしめねばならないと信じておりました。

三宅 馬場さんにお願いします。馬場さんは，學會の評議員，もと松本さんとおつしやつたかたで，そのころのほうが，かえつて，一般にはよく知られていられるではないかとおもいますが，そのころ慶應ボーイであつた「松本」さんは，ずいぶんよく活躍されたものであります。慶應を御卒業になつてのち，長らく御病氣をなさつて，そのあとも御靜養の期間が長かつたため，自然，積極的な運動のほうからも離れていられましたが，最近では健康も御恢復になりましたので，これから，また，大いに働くといつていられます。御入會のときは，16，芝中學の，かわいい中學生でいられましたが，ただいまは，商船の會社，馬場商事株式會社の常務取締役でいられます。

馬場清彥 16 歳の夏，病を得て，横濱本牧

にある親戚の家に轉地療養中，當時熱心な同志であつた山ノ井愛太郎氏の知遇を得，同氏がその後横濱にいたクズネツォフとゆう露人エスペランチストを伴つて，たびたび僕のところへ來ては，流暢なエスペラント會話を聞かせてくれたため，自分もひとつやつてみようかとゆう氣になつたのが，そもそもの始まりです。

山ノ井愛太郎氏は，我國エスペラント界で最も古い同志の部類に屬する人で，我國エスペラント史上には，少くとも，その名くらいは留めてしかるべき人なのですが，今では，おそらく彼の名を知る人もなかろうとおもいます。同氏は，まれに見る語學の天才で，エスペラントの會話など現存エスペランティストの誰に優るとも劣らぬほどでしたし，當時，“Ekzercaro”を，初めから 2–3 章は諳記していたらしく，僕が習い始めるようになつてからは，毎日“Ekzercaro”を口述してくれ，僕はそれをしては，勉强したものでした。しかし，彼も亦『天才は狂人なり』の例にもれず，それから 4–5 年ののち，精神に異常を來し，爾來，轉々と精神病院に療養の生活を送つていたのですが，大震災以來杳として消息が知れず，あるいは死んだのかも知れぬとおもつていましたところ，最近，彼は今なお郊外のある病院に生存し，チェック語の飜譯物などを頼まれてやつているとかゆう話を聞き，眞に氣の毒だと思つています。聞けば，いまなお病院の人等をつかまえてエスペラントを喋つているそうですから，そのうち Esp-ista Frenezula Rondo かなにかできるかも知れません。

三宅　山ノ井氏は，去年の5月ころ，突然，學會を訪問して來られました。いきなり，自分は 10 年ばかりエスペラントを話さないが——と，毎日使つている母國語でも，普通の人では，こうあざやかには語れないような巧みさで話し出されました。逢つたのははじめてですが，この人については，かねて聞きおよんでいますので，“Ĉu mi ne havas ĝojon paroli kun S-ro Yamanoi?”ともうしましたところ，すつかりおどろかれましたが，大變よろこんで，それから1週間ばかりのうちに 3–4 回見え，水曜日の例會でも，話していただいたりしました。エスペントで話していると，聲の調子がすこし高いほかには，話の筋道に，すこしもおかしいところが見えませんでした。日本語で話していると，話のうちに，すこし眉唾もののようなところがある。ちようど記念大會をまえにひかえていたので，大會にはポーランド大使を招待したいが，大使が歸國されたので——と話すと，それらの事情もよく知つていられ，參事官を知つているから紹介状を書いてやろうといつて，ポーランド語の手紙をタイプしてくれましたが，おもいなおしたように，いや，あす，大使館へ伴れていつてあげよう——と，時間まで打合わせて歸つてゆかれた，それつきり消息を絶つてしまいました。どうしたのかとおもつているうち，切拔通信社から「横濱貿易新聞」の切拔が來ました。それによると，同氏は，そのころ，病室から脱走中であつたのが，横濱で，偶然のできごとで捕えられたとゆう話——そして，その切拔が，學會の手にはいつたわけは，同氏が語學の天才で，エスペラントができるところから，南米某國の名譽領事まで勤めたことがある，とゆうのです。これなど，日本エスペラント運動エピソードの，最大傑作のひとつでしよう。

馬場　僕が始めて學會を訪問したのは，エスペラントを始めて1年餘り經つた，ある水曜例會の日であつたと思います。そのころ學會では，小坂大人は別として，堀眞道，井上萬壽藏，長谷川理衞，岡本好次，川崎直一，進藤靜太郎の諸兄がまだ學生時代で，こういつた覇氣滿々たる闘士が揃つて例會では，一切日本語を使わないとおどかされていましたので，今でさえ弱い心臓をドキつかせながら，自己紹介の文句を頭の中で繰返し繰返し，わかりにくい新小川町の路地を入つて行きました。玄關を開けるとうす暗い土間には，すでに 5–6 足の靴や下駄が並び，案内を乞うと出て來られたのは，寫眞で見覺えのある小坂さんだつた。あわてて，“Bonan vesperon.”と口吃ると先生は何かペラペラと話しかけられる，ところがテンデ解らない。ドギマギしながら，默つて先生の後について階段を昇つて

行く。會話だけは，山ノ井氏に大分仕込まれたつもりなのに，1語も聞きとれないとは，と，つくずく心細く思いながら，ふと，先生が他の人と喋つていられるのを聞いていると，何とそれは日本語ではないか。エスペラントよりは遙かに下手な速射的吃音邦語でありました。暴言多謝。いまだに忘れ得ないことの一つです。

そのころの幼稚な頭で，人類人主義など勿論まじめに考えたことはありませんが，大戰後日本へ亡命して來た外國の同志が山ノ井氏と打融けて話しあつているのを聞いたとき，何もわからぬながら，何かしら國境や民族を超越した和かな雰圍氣と，生きた言葉としてのエスペラントを感じたことは確かです。

三宅　おくれて御參加になつたかたが，まだありますが，それは，來月號で御紹介することにいたしまして，つぎにおたずねいたしたいのは，

エスペラントがお役に立つたことがございますか

とゆうことであります。それは，物質的な意味ででも，精神的な意味ででもよろしゆうございます。どなたからでも，どうぞ！

下村　精神的に役に立つたことは，非常なものです。變なことをもうすようですが，私の結婚の peranto は Esperanto だつたですから。

山田　直接的物質効果としては別になかつたが，井戸の中の蛙ともゆうような獨善主義から，國際人としての日本人とゆう觀念に立脚し，この人生を力強く生き拔こうとゆう信念を自分に與えてくれた精神的効果に感謝しています。また，父が35年來經營して來た吳服屋から洋服店へ180度の轉向も，そのひとつの現れだと信じています。

中西　私がまえの勤先戸畑鑄物に入社したのは，米人技師のアルバート・エヌ・リットル氏の助手といつた形でした。ところが私には，英語は全く鬼門に屬し殊に米語と來れば全く言語に絕したものがありました。しかし世の中は實にうまく出來ていて，彼は永らくメキシコにいたため，スペイン語を心得ていた。事が面倒になつて判らなくなるとスペイン語で話しはじめる，それを私はエスペラントより想像して理解する，——こんなことで，どうやら彼と5年間生活をともにすることができました。

伊井　盲學校囑託の俸給とエスペラント著書の印稅で7年以上生計を立てました。精神的には衿持と信念を得ました。

西　あまり役に立つたことはありません，物質的には，損ばかりしています。

三宅　——とおつしやるのは，『めさきの實利的な意味で』と解釋させていただきます。したがつて，このお言葉が，エスペラントの實用性，ただしい意味での有利性を御否定になるものでないことは，先生が，あれだけの御熱意をお持ちになつて，『損ばかりし』ながら，わが國醫學界へのエスペラント導入にお盡しになつていることを拜見すれば，よくわかることであります。誤解する人もありますまいが，念のために注釋させていただきます。

多田さん，ヨーロッパではいかがでございましたか。

多田　トルストイは，エスペラントの文法は30分間で呑み込める優秀な人造語だと言つたそうだし，何 (Ga) さんも，一月自習すれば，外人と文通出來ると言われたが，私自身は，とうとうエスペラントを役立てる程度にまで學び得ませんでした。

そんなわけで途中退會していましたが，一昨年11月，外國留學のことが決定しましたので，英獨以外の言葉を學んだことのない私は，歐洲旅行に役立つかと思ひ，再入會しましたが，實際には，何の役にも立ちませんでした。

昨年の4-5月頃，ロンドンのエス語 Club へ1-2度行つてみましたが，それは世界各國から集つた庶民階級の者どもに，安價に樂しめる機關を提供するのが目的で，社交ダンスと音樂會を主として催すのであつて，私には行きにくいので，その後全く行かなくなり，從つて，今年7月のロンドンにおけるエスペラント大會へもまいりませんでした。

5月，Genève へ行つたとき，新渡戸博士に從つて英國に渡り，後，國際聯盟に入られて，今日まで17年間，歐洲生活をしていられる

原田さんにお目にかかつたが，時あたかも，英國の申出で，エチオピア攻略問題を議る國際聯盟理事會が開かれた最初の日で，新渡戸博士のお話など伺う機會もありませんでした。

三宅 ヨーロッパで，エスペラントが役に立たなかつたとおつしやるのは，どなたかの言葉をかりていえば，つまり，『アンテナをたてず』にお歩きになつたためとおもいます。アンテナをたててお歩きになれば，たとえば，1月號，堀さんのお話にありました，外務省の市河さん，最近おなじ文化事業部の第3課から第2課にお移りになりましたが，このかたなど，フィンランド領事時代，非常にエスペランティストの世話になつたと言つていられます。長谷川さんなども，御留學中，外國のエスペランティストと同居して，大いに便宜を得られたそうですが……

長谷川 役にたつたことも多くありますが，長くなるから省きます。

園 私は，大正12-15年，アメリカとヨーロッパに留學中はエスペラントによる强い印象を受けました。そのひとつは，大正13年夏，デラウエア洲アルデン村に開かれた全アメリカ・エスペラント大會に出席したときで，アルデン村はフィラデルフィアに近い共產村で，村の自然の風物も村人の人情もなつかしい限りです。バハイ敎のアレキサンダー孃の紹介せられたニュー・ヨークの對岸にいたエスペラントの一家との會食も慕しいものです。

大正14年初夏のパリーで街頭で綠星章によつてフランスとイギリスの同志に呼びとめられて，ちようどそのころ開催中の大會に出席したこともあります。アルデン村のことは，「日本評論」の前身，「經濟往來」の大正15年か昭和2年の何月號かに拙文を投じ，パリーの出來事は，義塾の機關雜誌「三田評論」大正14年の何月號かに，栗飯原晋氏あての拙信が載せてあります。

『話せぬエスペランティスト』の私でさえ，愉快な，10年あまりにありありと覺えている深い感銘があります。『話せたら』もつともつとあつたろうと存じます。

石黑 昭和5年のヨーロッパ旅行で役に立ちました，物質的にも精神的にも。

昭和3年「婦人公論」にエスペラント・ページを10ヶ月に亘り執筆したときに，エスペラント關係の執筆として，前にも後にもはじめて普通並の稿料を貰いました。

中原 エロシェンコ君が京都に來たときのこと，ロシア人と會話ができるとは夢にも思つていなかつたのができました。それ以來國際人として，大いに利用しました。殊に'37年歐洲に旅して，その力の偉大なることに驚きました。

三宅 中原さんは，エスペラント關係の出版で，どれほどおもうけになりましたか？とゆうよりも，どれほど損をなさいましたかと，おたずねしたほうが，よいかも知れませんが。勿論，中原さんのは，そんな損得とゆう意味からでなく，エスペラント運動のためとゆう意味からなさつたことではありますが，われわれの立場からいつて，もうけていただくくらいであるのが，のぞましいのです。それで，自然，損得について，關心が持たれるわけなのですが……

中原 カニャは，我々の運動に必要と認められたあらゆる仕事に便利を與えてくれました——雜誌を發行し，書物を出版し，講習會も開き，レコードもこしらえた。およそエスペラント運動に必要であることは，何によらず，やつてのけました。——それは，利益のために働いておるのでなく，エスペラント運動に大きな一面の仕事を受持つている特殊の存在でありました。目的が營利でないために，利か損か記錄もなく，計算を立てたこともありませんから，殘念ながら御返事が出來かねます。

三宅 そのほかのかたは？

藤間 物質的には何もありません，精神的にはウンとあります。

保坂 エスペラントを憶えてから，外國語を習うに大變入り易いことが物質的の恩惠であり，精神的には日常の總てが，エスペラントの賜であると思つております。

進藤 商賣に關する限り『軍機秘密』に屬し，具體的にもうしあげかねますが，エスペ

ラント運動に携わつているお蔭は絶大です。得がたい知己を得，經驗をし，特に外國人および國外事情に對する獨特の心構を養うことの出來るのは著しいです。

三宅 進藤さんが貿易に從事していられる點で，お話に特別の意味のあることを御記憶ねがいます。

根本 物質的にエスペラントが役立つたことはありません。精神的には役立つた，いや今でも現に役立つていると思はなければなりません。そうでなければ，もうすでに，エスペラントから離れ去つていたに相違ありません。

吉川 精神的に大きな慰安を得ております。

堀 生涯の友とし自已の生活を全世界全人類に擴張する便として大いに役立つております。そして homarano としての同志を知己とし得たことを感謝しております。

丘 日本語または普通の外國語の書物を讀んでいたのでは，到底知り得ないような小さな國々の國情その他を知り得たのは，全くエスペラントのお蔭だと思つています。

三宅 ただいままでのお話をうけたまわつていますと，外國へおいでになつたかたは別として，そのほかのかたがたは，精神的なもののほかに得られたところが，あまり多くない，これは，たしかに，一般的な狀態と見てよかろうとおもいます。しかし，こうした，個人個人が，エスペラントの將來を信じ，現實には，ただ精神的な側のもののみで滿足して働いていること，これが全體から見て，しらずしらず大きな役割をしていることは，日支事變にあたりまして，世界のエスペランティストたちの態度が，これを示しております。支那のエスペランティストたちも，この事變にあたつて非常に活躍しているらしいのですが，その活躍の効果が，一向，表に出て來ない。すくなくとも，たとえば，SAT あたりが，その立場から言つて，支那のエスペランティストの代辯者になるとか，または，彼等の文章を機關誌に載せて，日本に毒ずくであろうとゆうことは，事變のはじめころ，われわれの覺悟していたところでありますが，それすら，沈默を守つているとゆうありさまです。これは，支那のエスペランティストの努力が足らないのでは，おそらく，なくて，强力な，日本のエスペラント運動に對する，ヨーロッパのエスペランティストの，平素からの尊敬と信頼とが役立つたためであるとおもいます。こうした，平素からの用意があればこそ，この事變について，われわれのゆうことを，すなおに理解してくれているのだとおもいます。一般社會では，ぐずぐず言つているあいだに，ドイツやイタリーに先んじて，滿洲國を承認したのもエスペランティスト大衆で，昨年の萬國大會が，滿洲國政府あてに，各國の政府へ送つた文書を送つている——これも，われわれ日本のエスペランティストの，平素の働きの結果であると信じます。これから，日本が先頭に立つて，新しい東亜を建設して行こうとゆうとき，これが正しい意味を，第1に，はつきりと理解してくれるのは，ヨーヨッパのエスペランティストたちであるとおもいます。また，われわれを深く知り，われわれを信頼し，尊敬することにおいて，ヨーロッパの同志に優るとも劣らない支那のエスペランティストたちは，今までこそ，エスペランティストとして國際的であるがゆえに，一層『祖國』とゆうものを愛し，そのために抗日宣傳戰の第1線に立つて戰つて來たものの，やがては，彼等の眞にめざめた祖國愛と，彼等の接したエスペランティストをとうした，日本に對する信頼とから，彼等が，われわれと手を携えて，新しい東亜の文化の建設に參加するようになるのは，案外遠くないのではないかとおもいます。エスペラントのもたらす利益も，こうなれば，大變大きなものではありませんか。

渥美 私は外人と文通のお蔭で，ロシアにミチューリンとゆう植物品種育成家がいることを知り得ました。このことについて，くわしくは「農業及園藝」第10卷第10號に書きました。別刷の殘部がありますから，御入用の方はどうぞ言つてください。

また，以前北海道農事試驗場に勤めていたころ，農業に關するエスペラント文の依頼狀が來ました。その返事も勿論エスペラント文

で書き，公文書として場長署名のうえで發送しました。その後2-3回エスペラント文の書面の往復があり，先方に對しては希望に應じてやり，當方としては，ポーランド產の農業種子の送付を受け，双方ともに便宜を得ました。そのほか，私は商賣柄，果物の包裝紙を蒐集していますが，イタリヤの同志から多種類の包裝紙を贈られ，貴重な參考資料を得ました。

三宅　ただいまのお話にありますようなことが，もつともエスペランティストにふさわしい利益でしよう。御職業がら，外國とのつながりをお持ちのかたは，遠慮なくエスペラントで手紙を出して御覽になれば，案外，案ずるよりは生むがやすいほうでないかとおもいます。理研の前田さんは，始終，エスペラントで報告を書いておられますが，十分に反響があるそうです。古くからのエスペランティストは，案外，エスペラントの有用性の現實に對して過小評價をする傾きがありますが，もすこし，無鐵砲とおもわれるような態度でやつてみる必要があるとおもいます。

外國同志との通信――これが，今度の事變にあたつて，いろいろ役立つたことは勿論ですが，平素にあつて，これが，ただいまのお話のやうに實益をもたらしたり，精神的な利益をこれから受けたとゆうような例は多いとおもいます。どなたか，

外國文通について，

興味あるお話をお持ちになりませんか。

伊井　海外文通で最初に受取つた返事は當時のイタリア首相オルランド氏からでした。そのころドイツから紙製洋服地の見本を度々受取りました。

進藤　何氏の手引で大正 10 年 UEA を知るまで海外文通は知りませんでした。文通を始めた時分の相手で今も殘つている人は流石に立派な人々です。

石黑　まえに言つた Labinski 氏はエスペラント學校の先生で，はじめるとすぐ3-4人文通者を紹介してくれました。

澤潟　ハンガリの人と文通しましたが，そのうち本職の方が忙しくなつて，尻切れとんぼにしてしまつたことを今だに氣がすまないように思い出します。

谷山　2-3 海外文通いたしましたが，エスペラントの練習上達が主意で何等經濟的な或は學術研究の交涉でなかつたため興味なく，殊に蒐集癖のない私は次第に中止するようになりました。

根本　當時，ドイツ及びハンガリの同志と5-6 回文通しましたが，ついに先方から返事が來なくなり，そのままやめてしまいました。

堀　UEA または BEA の雜誌等で盛んに海外に通信をしました。

下村　興味がなく，あまりやりませんでしたが，當時文通相手の外國人のエス文が思つたほど上手でないのに，かえつて，我が意を得たようでした。

三宅　下村さんの言葉と，さぎほどの進藤さんのお話とあわせて考えると大變おもしろいとおもいます。われわれは，エスペラントをやつたおかげで，外國人とわれわれとが對等であるとゆうことを，ただしい自信をもつて，知ることができました。しかも，それと同時に，かれら自身をして，この對等とゆうことを，抽象概念としてでなく，現實に認めさせています。このことは，ほかの外國語をとうしてでは不可能のことであります。外國語で，かれらに接していては，いつまでも，ある卑屈さからのがれることはできません。たとえ，自分では，その卑屈さを意識しないでも，あいてには，優越感を與えております。日本で出版された數百種のイギリス語の教科書のただの1册でも，イギリスかアメリカで使われているでしようか。ところが，ヨーロッパで，われわれの作つた教科書でも講習が行われる，アメリカでは，われわれの編纂した宣傳册子によつて，數千人の人がエスペラントを知つた。また，この雜誌に書かれている日本語の記事から，ところどころ挾まれたエスペラントの單語をひろいあつめてまで，かれらは日本人の言語理論を知ろうと努力しています。

あらゆる先入觀をすてさせる，こうした相互的對等感こそ，ヨーロッパ人をして，新しい東亜の現實を認めしめる，もつともただしい手段ではありますまいか。（つづく）

D-ro ASADA-Hazime

Uzu Esperanton!

Lastatempe la ministerio de edukado japana intencis subpremi la instruadon de fremdaj lingvoj ĉe la medicinaj fakaj lernejoj. En Japanujo oni lernadis anglan lingvon 4-6 horojn semajne ĉe la liceo. Ĉe la plialta lernejo oni lernadas 13 horojn semajne germanan aŭ francan lingvojn kaj 3 horojn anglan. Ĉe la fakaj lernejoj medicinaj kaj aliaj oni lernadas 4-5 horojn germanan, kaj kelkajn horojn anglan lingvojn. Ĉe la universitato japanaj profesoroj prelegas ne pure japanlingve, sed fakaj esprimoj estas parolataj ĉefe germane aŭ angle, kaj nur helpvortoj japane. Lernantoj de fakaj lernejoj ne bone komprenas fremdajn lingvojn, sed sufiĉe fakajn esprimojn. Por gajni tiagradan konon de fremdaj lingvoj oni ne bezonas multe da horoj. Elgradigitoj el eĉ universitato povas nek paroli, nek skribi ian raporton fremdlingve. Por mastri ian sciencon, ni japanoj nepre devas lerni fremdajn lingvojn. Kaj por mastri ilin, ni devas perdi multe da horoj. Se ni uzus Esperanton, ni povus ŝpari horojn kaj publiki nian laboraĵon tute facile al alilanduloj. Do ni povus mallongigi lernjarojn de liceoj kaj faklernejoj. Ĉe ni sin trovas alia movado kiu intencas uzi latinajn literojn por skribi japanan lingvon. Ni perdas multege da tempo por lerni ĉinajn kaj japanajn literojn. Preskaŭ neniu el elgradigitoj el universitatoj povas skribi korekte kelkajn paĝojn ĉinlitere. Paralele kun tiu movado ni devas nin doni al nia sankta movado. Ni devas forpeli anglan kaj francan lingvojn el la internaciaj konferencoj, kaj uzi neŭtralan artefaritan lingvon Esperanton, ni devas skribi Esperante multe da bonaj artikoloj, kiujn ĉiu devas legi. Gejunuloj! Mastru Esperanton! Sen rigardo al aliaj lingvoj, nur parolu kaj skribu Esperante ĉion, kion vi volas sciigi al fremduloj! Tio estas tute ne alia ol patriotisma. Interne latinigu niajn literojn, kaj ekstere nur uzu Esperanton!

ministerio de edukado 文部省
medicina 醫學の
faka lernejo 專門學校
prelegi 講義する
elgradigito 卒業生
publiki 發表する
latina litero ローマ字
paralele 平行的に
konferenco 會議

MARA ĈASO · MONTA ĈASO

UMIHIKO KAJ YAMAHIKO

—Dramo en unu akto—

(*Daŭrigo*)

de YAMAMOTO-YŪZŌ

tradukita de YAMAGATA-MICUE

laŭ la afabla permeso de la aŭtoro

UMIHIKO: (*esploranta fiŝkanon*)—Ha, tiel! Tute kiel mi timis! Kia senhontulo vi estas, ke vi, jam perdinte la hokon, kuraĝis diri, ke ni daŭrigu la samon, kaj ke morgaŭ vi kaptos abunde!

YAMAHIKO: (*silentas*).

UMIHIKO:—Nu, Yamahiko, se vi perdis la hokon, kial vi ne konfesis tion humile? Vi ja provis kovri la aferon, aŭ intencis mistifiki min per donaco de la pafarko,—kial agi tiel malŝatinde? Kio helpas, eĉ se vi prokrastus la aferon por unu tago? Ĉu vi volas dume iel ripari la aferon? Vere abomeninda vi estas!

YAMAHIKO: (*des pli obstine silentas*).

UMIHIKO:—Ĉu mi ne antaŭvidis, ke en nekutima laboro ni certe havos absurdan rezulton? Sed vi tiel persiste proponis interŝanĝi la ilojn, ke fine mi devis cedi,—kaj jen, tia sekvo! Precipe domaĝe estas, ke la perdita hoko estas la plej bona, kiun mi pruntis al vi por ke la laboro estu pli facila. Tiu estis ja mia plej kara hoko!—Nu, kie vi fiŝhokis hodiaŭ?

YAMAHIKO: (*silentas*).

UMIHIKO:—Diru, kie vi estis!

YAMAHIKO: (*en silento subite elingigas sian glavon kaj enŝovas la klingon en la fajron*).

UMIHIKO:—Kion vi faras? Per tio? For sensencaĵon!

(*UMIHIKO penas eltiri la glavon el la fajro. YAMAHIKO kontraŭas*).

UMIHIKO:—For! La klingo forfandiĝos!

YAMAHIKO:—Estu tiel!

UMIHIKO:—Kia obstinulo! Kion vi volas per tio?

YAMAHIKO: (*ne respondas*).

UMIHIKO:—Ĉu vi volas fari hokon? He, kiel vi povus fari hokon!

YAMAHIKO :—Povi aŭ ne povi, tio ne koncernas vin. Vi estos kontenta, nur se mi redonos al vi hokon.

UMIHIKO :—Kio?

YAMAHIKO :—Nenio gravas, nur se mi redonos al vi hokon. Kial brui pro unu hoko?

UMIHIKO :—Kiel vi kuraĝas tiamaniere pretendi, perdinte mian hokon.

YAMAHIKO :—Ĉar vi tiom grumblas.

UMIHIKO : (*akre*)—Yamahiko!

YAMAHIKO : (*kun afekta trankvilo*)—Kion vi diras?

UMIHIKO :—Ĉu vi opinias, ke la afero finiĝos nur per redono de la hoko?

YAMAHIKO :—Kial ne?

UMIHIKO :—Ĉu vi do povos redoni ĝin, mi dubas?

YAMAHIKO :—Kompreneble jes! Multe pli bonan ol la perditan.

UMIHIKO :—Mi ne postulas hokon de vi farotan, sed la pruntitan.

YAMAHIKO :—Estas tute egale, ĉu tiu aŭ alia, nur se ĝi taŭgas por fiŝkaptado.

UMIHIKO :—Por kio taŭgus hoko de vi farita! Al tia hokaĉo, mi estas certa, eĉ unu fiŝo vivanta ne alkroĉiĝos.

YAMAHIKO :—Kial ĝi ne utilas? (*Li eltiras la ardantan klingon kaj frapas ĝin per metalaĵo*).

UMIHIKO :—Hej, Yamahiko, al vi estas neeble fari hokon. El tia frapado nenio fariĝos. Ĉesu hej, ĉesu!

YAMAHIKO : (*silente frapadas kun tintsonoj*).

UMIHIKO :—Nu, jam ĉesu obstini. Tio utilas por nenio krom vundi la fingrojn.

YAMAHIKO :—Kia bruo; mi tuj redonos. (*Li frapadas plu*).

UMIHIKO :—Memoru, mi neniam akceptos tiajn fuŝajn hokaĉojn, eĉ se vi faros milojn. Mi tute ne deziras tiajn. Mi postulas la mian; ĝuste kiun vi perdis.

YAMAHIKO :—Tiu ĉi sufiĉos.

UMIHIKO :—Ne!

YAMAHIKO :—Do, vi, malgraŭ miaj tiaj klopodoj...?

UMIHIKO :—Kion vi nomas tiaj? Vi nur obstinas... Kaj vi pensas, ke tia hoko taŭgos por io?

YAMAHIKO :—Ej, laŭ via plaĉo!

(*Li subite ĵetas la frapilon sur la parteron*).

UMIHIKO :—Laŭplaĉe? Kia malĝentileco! Redonu la hokon laŭ via promeso.

YAMAHIKO :—Estas vi priresponda, ke vi ne akceptas.

UMIHIKO :—Mi ja bezonas la pruntitan hokon. Nu, redonu. Tuj!—Kiel? Jen vi ne povas, aŭ, per via honoro, nun prezentu la hokon antaŭ min!—Hu, fine vi ne povas!

YAMAHIKO : *(silentas).*

UMIHIKO :—Jen mi vidas, ke vi nur fanfaronis.

YAMAHIKO : *(murmure)*—Diablo!

UMIHIKO :—Ĉu vi ne petus pardonon.

YAMAHIKO : *(silentas).*

UMIHIKO :—Ĉu vi ne volas?

YAMAHIKO : *(silentas).*

UMIHIKO :—Hej, ĉu vi ne volas peti pardonon?

YAMAHIKO :—Ne!

UMIHIKO :—Ne?—Tiam redonu la hokon.

YAMAHIKO : *(silentas).*

UMIHIKO :—Hej, ĉu vi ne aŭdas? Redonu!

YAMAHIKO :—Jes, mi redonos!

UMIHIKO :—Redonos?—certe?

UMIHIKO :—Mi bezonas la hokon morgaŭ frumatene. Do, ĝis tiam vi nepre elserĉu ĝin.

YAMAHIKO :—Jes, kredu, mi elserĉos.

UMIHIKO :—Tre interese!

YAMAHIKO : *(silentas,—plorvoĉe)*—Mi elserĉos, nepre.

(Tamen YAMAHIKO restas senmove sidanta, kaj ne ŝajnas, ke li leviĝos).

(Ankaŭ UMIHIKO, ne persekutante plu, dum kelka tempo restas silenta; poste li elprenas el la poŝo kelkajn juglandojn, kaj senŝeligante ilin kun krakoj per ŝtono, ekmanĝas en profunda silento).

(Sufiĉe longa paŭzo).

(YAMAHIKO abrupte ekstaras; ŝajnas, ke li eliros).

UMIHIKO :—Kien vi iras?

YAMAHIKO : *(silentas).*

UMIHIKO :—Ĉu vi iros al la bordo?

YAMAHIKO : *(silentas).*

UMIHIKO :—Se jes, prenu manĝon antaŭe.

YAMAHIKO :—Mi ne havas apetiton.

UMIHIKO :—Yamahiko! Kial vi estas tiel obstina?

YAMAHIKO : (*apenaŭ ne plorante*)—Obstine estas viaflanke.

UMIHIKO :—Ĉiuokaze aŭskultu min kaj manĝu. (*Li perforte sidigas la fraton*). Vi estas malsata.... Nu, manĝu!

(*Ankaŭ YAMAHIKO manĝas juglandojn. Sed ambaŭ restas silentaj. Aŭdiĝas nur krakoj de senŝeligado de juglandoj kaj de tempo al tempo sonoj reteni nazmukon*).

UMIHIKO :—Ĉar mi akiris nenion hodiaŭ, mi kolektis ĉi tiujn.

(*UMIHIKO momente rigardas YAMAHIKO, kiu tamen montras nenian interesiĝon. UMIHIKO ĉesas paroli*).

(*Ambaŭ manĝadas denove en peza silento*).

UMIHIKO : (*kun milda tono*)—Vi estas malsaĝa. Jam forlasu obstinon.

(*Li iras al la angulon de la budo kaj alportas faskon de sekigitaj fiŝoj*).

UMIHIKO :—Nun ni manĝu ĉi tiujn,—kvankam ŝpareme konservitaj fiŝoj.

(*Li donas fiŝon al la frato kaj ankaŭ li mem manĝas*).

(*Paŭzo*).

UMIHIKO :—Ha, mi estas jam tute sata. Mi dormu frue hodiaŭ.

(*Li iras al la enirejo kaj rigardas eksteren*).

UMIHIKO :—Brilas multe da steloj. Estos bele ankaŭ morgaŭ.

(*Li fermas la pordon*).

UMIHIKO :—Ankaŭ vi enlitiĝu frue.

(*UMIHIKO aranĝas simplecan liton sur la planko kaj kuŝiĝas*).

UMIHIKO : (*en la lito*)—Ha, nenio estas pli komforta ol kuŝi en la lito!

(*Longa paŭzo*).

(*Ĉirpas insektoj*).

(*YAMAHIKO dume sidas senmove ĉe la fajro; de tempo al tempo li viŝas larmojn*).

UMIHIKO : (*hazarde vekiĝas*)—Vi ankoraŭ ne enlitiĝas?

YAMAHIKO : (*silentas*).

UMIHIKO :—Kial vi ne enlitiĝas? Nu, jam kuŝiĝu.

YAMAHIKO : (*plorvoĉe*)—Kial mi povus enlitiĝi, kiam mi devas iri por serĉi la hokon!

UMIHIKO : (*subite salte leviĝas*)—Ĝis kiam vi estas gluita al la bagatelo? Malsaĝulo! (*Li subite batas la fraton.*)

YAMAHIKO :—Kion vi faras?

UMIHIKO :—Obstinulo, kiel vi, lernos nur per tio. (*Li subpremas lin kaj batas*).

YAMAHIKO :—Kion vi faras? (*Li rezistas*).

UMIHIKO :—Ĉu vi ankoraŭ ne komprenas? (*Forte premante*) Kion vi dirus? Jen, ankoraŭ ne? Ĉu ne!

YAMAHIKO : (*silentas*).

UMIHIKO :—Hej, kial silentadi? Ĉu vi estas sensenta kontraŭ tiom da batoj? Malsaĝulo! Vi, fibesto! Bestaĉo! Bestaĉo! (*Li batas plu*).

YAMAHIKO : (*diras nenion, kuŝante kun la vizaĝo premita al la partero*).

UMIHIKO :—Kia obstinulo! Kial vi batita ne ploras?—Kial ne, kun kriego? Katenita de tia obstineco, vi ne povas esti honesta. Sola vorto: pardonu, ja solvas ĉion. Kial vi ne povas eldiri tion? Ekzemple hodiaŭ—vi aŭ volis kompensi la perdon aŭ intencis fari hokon, kio estas evidente super via kapablo. Por kio vi agas tiel kontraŭeme? Por tia sinteno, oni malgraŭvole emas postuli eĉ perditan hokon, ĉu ne? Nenial mi volis havi la perditan hokon; tiajn mi havas multe. Mi devis diri tiamaniere, kvankam kontraŭvole, ĉar via teniĝo incitis min netolereble. Tamen poste mi ekpensis, ke mi riproĉis vin tro severe, tial mi faris klopodojn mildigi al vi la humorojn. Malgraŭ tio vi estas ankoraŭ kroĉita ĉe la afero! Mi ne povas mezuri vian obstinemon!

YAMAHIKO : (*silentas*).

UMIHIKO :—Mi ne batas vin pro amuzo, mi ne koleras pro plezuro. Nur, mi ne povas toleri en vi la opinion: redono solvas ĉion. Ĉu vi pensas, ke kompenso plenumas ĉion? Sciu: ekzistas en la mondo tio, kion oni neniel povas kompensi.—Ke vi perdis la hokon, tio ne gravas. Mi ne riproĉas tion. Ankaŭ mi tre ofte perdas hokon. Tre nature estas, ke vi perdis la hokon en nekutima laboro. Mi ne povas kompreni, kial vi aŭ penis iel kaŝi la aferon, aŭ intencis trompi min. Ĉu vi ne kuraĝis konfesi la aferon des pli, ĉar la planon vi mem proponis? Jam tio ne plaĉas al mi. Kial vi ne povas havi pli humilan koron? Kion oni ne povas kompensi...

YAMAHIKO : (*silentas*).

UMIHIKO :—Ne. Mi jam finu. Mi ne ripetu la samon vane.—Nu, finite: jam enlitiĝu.

YAMAHIKO : (*restas en la sama pozo*).

UMIHIKO :—Nu, enlitiĝu... Mi diras al vi, enlitiĝu! (*Li volas konduki lin kun si*).

YAMAHIKO : (*subite ekploras*).

UMIHIKO :—Pro kio plori? Enlitiĝu, malsaĝulo!

(*UMIHIKO perforte, preskaŭ ĵetfaligante enlitigas la fraton. YAMAHIKO daŭrige ploras en la lito*).

(*UMIHIKO ordigas iom ĉirkaŭ si kaj enlitiĝas. La fratoj kuŝas dorso ĉe dorso*).

(*Paŭzo*).

(*Ĉirpado de insektoj*).

(*De tempo al tempo aŭdiĝas ululado de noktaj birdoj*).

(*YAMAHIKO subite leviĝas sur la lito; dum kelka tempo sidas senmova, kaj poste kuŝiĝas kviete*).

(*Longa paŭzo*).

(*En la hejtejo la fajro malfortiĝas tiel, ke la fumo ne leviĝas plu. De supre tra la truo senforte enfalas de tempo al tempo velkintaj folioj*).

(*YAMAHIKO denove vekiĝas; kuŝanta en la lito ĵetas malstreĉan rigardon al la estingiĝinta fajro. Post kelka tempo decideme iras malsupren sur la parteron kaj rearanĝas la fajron*).

(*Ĉe la bruo UMIHIKO vekiĝas*).

UMIHIKO: (*en la lito, dormeme*)—Ĉu la fajro estingiĝis?

YAMAHIKO:—Jes.

UMIHIKO:—Ĉu ne ekbrulas?

YAMAHIKO:—For zorgojn, ne leviĝu.

UMIHIKO:—Yes?

YAMAHIKO:—Jen, sukcesite.

UMIHIKO:—Do, hejtu abunde; estas malvarme hodiaŭ.

YAMAHIKO:—Jes.

(*UMIHIKO tuj falas en profundan dormon. La fajro denove brulas energie, eligante belajn fajrerojn*).

YAMAHIKO:—Mia frato.

UMIHIKO:—......

YAMAHIKO:—Mia frato.

(*Refoje li alvokas la fratKon, kiu tamen facile dormadas. Ankaŭ YAMAHIKO tuj enlitiĝas*).

—*La Kurteno*—

進藤靜太郎

大會規約案ふたつ

規約案提案の趣旨

日本エスペラン大會規約とゆう事を概括的に考えてみて，先ず頭に浮ぶのは財政的方面の外に，大會が據つて以て立つべき日本エスペラント界の全體的組織體制である。殊に大會議事の運行を考慮に入れる時，この體制の問題が肝心になる事は既に千布大先輩の草案にも指摘されている通りで，在來の大會參加個人を單位としたのでは根本の不安定は致命的である。

然らば此の根本問題を解決する途如何。幸い現在の非常時の下にあつても多年培われた我等の地盤は相當强固になつている。各地の地方會又は學會支部を經とし各專門に別れて立つ分科會を緯とするもの卽ち之である。更に我等は Landa Asocio として國際的使命を果し，且つ財的にも又公共團體としても獨自の使命を遂行しつゝある JEI 財團法人を持つ。是等を體系付ける事が卽ち解決の途であらねばならぬ。

其の形式も或は JEI を大會の上位とし，或は其の下位とする意見もあつたが不幸にして實現の可能性なくして了つた。

理想論としては Landa Asocio が運動全般を總括し，その總會が大會の形式を採つて廣義の Manifestacio を行う事が最も直截的ではあるけれども，事實これまでの推移に伴う事情もあり，且つ又學會寄附行爲內規の全面的改革を伴う問題であるため，手が着けられぬ狀態にある。

特に學會が上の樣な狀態にある時，之を財政的に見て大會としてもその恒常的經費すら一部參加費を除いては專ら開催地有志の出捐に依存するのみで，年々開催地を變えるとはゆうものの全國的連繫は全く無く，從つて，經費捻出の途の少い所では，全く大會を開けない。

幸い多年其方に力を致される神戶の同志殊に橋詰氏の御指導と京都の同志殊に中原氏の御支援の下に，敢て本案を提出し大方の御叱正御協力を乞い，來る大阪大會協議會の一題目に加える意圖を持つて，公開する次第である。

說　明

大會の經費を大別して次の三つとする。

1）　恒常的必要經費：開會式協議會等大會に缺くべからざる行事に要する會場費・事務費及び雜費。

2）　大會決議事項遂行に伴う經費。

3）　開催地の，參加者に對する接待費。

この內 3）は一部分參加者より徵集される外は，開催地同志の他所同志に對する友誼的接待費として當然今後も開催地の寄附に俟つ性質のものである。

然し 1）と 2）は當然運動全般の負擔すべき性質のもので，從つて既に一部分 Kotizo とし徵集されてはいるが，決して充分でなく，Protokolo 費が JEI から出る以外は矢張寄

地方會並ビニ分科會ニ關スル大會規約案

1.　大會ニ參加スル地方會並ビニ分科會ハ次ノ條件ヲ具備スベシ：

——10名以上ノ Esp-istoj ヲ以テ組織セラルヽ事。

——別ニ定メラレタル期限マデニ會員1名ニ付キ年額1圓ノ割合ヲ以テ大會賦課金ヲ醵出スル事。

（附則）　大會賦課金ハ每年1月末日マデニ常置委員宛振替貯金口座番ニ拂込ム事。

決議委員會ニ關スル大會規約案

1.　大會協議會ニ提出セラレタル議題ニ基キ決議案ヲ作成スルタメ決議委員ヲ置ク。

2.　決議委員ハ次ノ委員ヨリ成ル。

——大會參加地方會並ビニ分科會ノソノ會員10名ヲ越ス每ニ1名ノ代表。

（付則）　代表ハ Mandato ヲ持參スル事。

Landa Asocio タル JEI ノ會長・理事長・書記長・會計理事・其他ノ理事・監事・評議員・IEL 代表及ビ Ĉefdelegito.

——各大會ノ會長並ビニ副會長。

（付則） 本條第1項以外ノ各員ノ代人ハ之ヲ認メズ。

3. 決議委員ハ參加地方會並ビニ分科會ノ4分ノ1ヲ以テ成立ス。

4. 決議委員會議長ハ大會會長之ニ當ル。議長ハ委員中ヨリ副議長ヲ選任スル事ヲ得。

5. 決議委員會ノ議事ハ大會議事規則ニ據リ之ヲ行ウ。

決議委員會ハ各別ノ規定又ハ議決ニヨリ委員以外ニ發言ヲ與フル事ヲ得。

6 決議委員會ハ大會會期中ニ次期大會ニ至ル期間ノ爲メ 15 名ヲ超エザル常置委員ヲ委員中ヨリ選任ス。

7. 常置委員ハ決議委員ノ議決事項ニ基キ Landa Asocio 並ビニ次期大會準備委員ト協力ス。

附に俟つている現狀で，殊に 2) に至つては殆ど今日まで顧みられていないと云つても過言でない。

更に大會を機會とする Manifestacio は是を全國的なものにすればする程有効な事に考え及ぶ時，どうしても大會の爲に今少しの經費を捻出せねば折角の大會も充分使命を果す事が出來ない，が運動の現狀から之は當分預りとしても，Kotizo を以て蔽えぬ 1) と 2) との部分は出來るだけ今度の賦課金で賄い度いものである。

尙折角これで學會支部以外の地方會も大會の下に全國的に組織化されるのであるから，この機會を利して有利な轉回を試み度い希望が多い。

そこで次の試案が生れる。

即ち各地方會分科會とも最低 10 圓の拂込みであるから，之を折半して5圓を大會直接費へ5圓を 2) を含めた意味で JEI へ渡す。

この JEI への少なからぬ部分は5圓は R. O. 誌を含めた學會出版の宣傳材料完全な年鑑其他となつて各地に還元されるであろう。或は又 JEI と地方會との聯絡も之に依つて容易にし得るであろう。殊に後援會が改組後 Esp. 宣傳と直接の關係が無くなる今日，この會を通した地方會の寄與は最も合理的な方法ではなかろうか。

又他方如何に豫算上餘裕の無い現在の學會としても，この地方會の好意ある積極的協力に對して何狀無爲で過せようか。即ち積極的局面打破の有力な導火線となる事必然である。

以上の內容を以て地方會・分科會——大會 JEI とゆう關係を考える時，運動の一單位が有効に醵出する金額は 10 圓以下では賄えない事を我等は肯定せねばならぬ。否，Esp. 運動が更に發展した時即ち大會，Landa Asocio を中心とした地方會・分科會の責務が擴大した場合には增額さえ豫想せねばならぬ。

尙附則で拂込を1月末日とした所以は春に大會の催される場合もある爲で，地方會で徵集される時期方法は大會の直接關與する範圍外で從つて任意とする。

大會の基礎が地方會及び分科會に置かれた以上，大會議事も亦同じ基礎の上に建直されねばならぬ。即ち草案の決議委員會の機構の依つて生ずる所以である。

然し乍ら參加地方會・分科會として規定されたところ以外にも及び全 Esp-ujo の amplekso を想う時，當然我等は此點を補う必要を感ずる。即ち個人會員を單位とする Landa Asocio の役員並びに從來大會の會長・副會長を地方會・分科會の代表と共に此の機構に含む所以である。而して其意味に於て代人を認めぬ事も亦當然である。

決議委員會成立の條件を參加地方會・分科會の4分1のとした所以は，其成立を出來得る限り容易にし，且つ其の規模及び代表の人數に不同ある各會に對して出來得る限り公平にせんが爲である。

常置委員は其性質上前大會の會長・副會長・書記長・會計委員長の外大會後事務處理に必要な大會事情に詳しい JEI 役員等に次回大會準備委員中の適任者を豫想して 15 名以內とした次第。

尙大會までの期間を利用して大方の批評を仰ぎ充分な推敲を得て協議會の決を待ち，翌15年度より實施さるに至れば幸甚である。

久保貞次郎

——ロンドンにて——

アメリカ大陸

French Textbook (*Zamenhof*) 1887
Princino Mary (*Lermontov*) 1889
Swedish Textbook (*Zamenhof*) 1889
Volapük und Lingvo Internacia (*Einstein*) 1889
Antaŭparolo al Vortaro (*Zamenhof*) 1889
Universala Vortaro (*Zamenhof*) 1894
Esp-Esthonian Vortaro 1895
Ekzercaro (*Zamenhof*) 1904
Plena Vortaro Russian-Esp. 1905
Kurzgefasstes Lehrbuch (*Sehrerm*) 1908
Russian Textbook & Reader (*Kabanov*) 1909
Russian Textbook (*Zamenhof*) 1909
Wörterbuch Deutsch-Esp. (*Jurgarson*) ?

これに加へて

Literatura Aldono de Lingvo Internacia 1906-7
La Revuo Sep. 1907—Dec. 1908
Lingvo Internacia 1907, 1908, 1909-10-11
La Universo, internacia revuo por la belo 12 n-roj

これに原作もの，飜譯もの，專門書等，合計 78 册のエスペラントの古い本が，アメリカの一角シアトルで 26 年間不平も云わず全然一指をふれられず横たわつていた。S-ro Charles E. Randall とゆう人物が 1912 年アメリカはワシントン州シアトル市の當時若いエスペランチスト Adams 氏に，自分のエスペラント藏書全部を殘して，ひよう然と去つた。これをうけとつた Adams 氏は 26 年の間これを箱に入れたまゝ埃を拂つたことさえなかつたのであつた。最近になつて，どうしたはずみか開けてみたら仲々貴重な dokumentoj だ。早速リストをタイプライターで打つて，さて，どうしたろうか。

Adams 先生は，このリストを前において手紙を書き始めたのである。「British Esperanto Asociation-Biblioteko 殿。

もし貴下の文庫に上記の書物の中いくらかを保有していないならば，至急印をつけて返送して欲しい。該書を寄贈したいから。

日本の同志諸君，この手紙は大西洋を渡つて，大英帝國の England に送られて行つたのである。アメリカ合衆國は英國の植民地であつたのであろうかと首をひねるかも知れない。しかし，アメリカは百數十年前にすでに revolucia milito といつてアメリカ人の誇る犧牲のもとに獨立を宣言している筈だ。しかも Adams 先生はシアトルに生れたアメリカ人である。

この手紙が丁度大西洋の眞中頃を東に向けて英國に到着すべく航海中，このリストを手にして，Adams 氏が十數年働いておるシアトル警察署の一室で，私は，青いセルロイドの庇帽をかむつた同氏とむき合つて坐つていた。

「S-ro Adams. 貴下は件のリストの書物中英國エス協會が全部寄贈を希望してくると思われますか。」

A.「いやそんな筈はない。自分は BEA-Biblioteko が旣にその中の幾多を所有していることを知つている」。

「然らばその殘り全部をわが國の卽ち日本エスペラント學會に寄贈する意志はありませんか？」

私はこゝで，財團法人日本エスペラント學會理事長大石和三郎先生の名前と學會の Adreso を殘して Adams 先生に感謝と別れの握手をした。歸り道々，もう一週間程前に，シアトルに到着していたならば，學會の文庫も一層權威をましたのだがなあと悔みながらめずらしく雨の降り出した中を坂を下つて行つた。

*　*　*　*

ロスアンゼルスで日本でも世界でも有名なS-ro Scherer に小生の歡迎會であつた。そしてこの席上，この話をすると Scherer 氏を聲はげまして

「何故彼はアメリカ-エスペラント協會を考えなかつたのだろうか」と。日本の同志諸君は御存じのことと思う。彼こそ全 48 州をすべるアメリカ•エス協會の會長であることを。しかし同時に諸君は次のことに氣付かなければならない。卽ちこの會長は，10數年程前には歐洲大陸のスイスでエスペラントを學び，後アメリカに歸化した新しいアメリカ人であることを。

この二つの事實の中に實はアメリカの現在のエスペラント運動の特徴的な現象が見られるのだ。Adams 先生を諸君は輕蔑してはいけない。彼こそは數年前，Literatura Mondo が Enciklopedio を編纂した時のアメリカの唯一の協力者であつた程古くかつ責任のある士である。彼は貴重な文献が徒に横わつていることの損失と，シアトル-エス會ではこれの利用者のいないことを歎き，そのために散逸を心配し，といつて，アメリカ・エス會の存在たるや甚だ心もとないので世界でも名高い權威ある BEA に寄贈を考えた譯である。と同時に日本エスペラント運動の實力をも知つている彼は，殘餘の寄贈を快諾したのだ。こうして，先人の殘して行つた 1912 年以前に發行されたエス文献がアメリカ大陸を東と西に，二つの島帝國の Centra Organizo に別たれて送られて行つたのであつた。そしてその間に横わるぼうばくたる大陸——産業文化の極度に發達した國——が依然としてブランクのまゝに未開の土地として耕されずに殘つているのである。

Scherer 氏が有能な同志であることは彼の業積によつて明かである。しかもこの會長が偶然外國からの移住者であるとゆうのでなく實は今日までのアメリカのエスペランチストと呼ばれる人々の多くが，舊大陸でエスペラントをやつて，それを抱いて新大陸に來たのである。こゝにアメリカエスペラント運動の弱さがある。

* * * *

ニューヨークに來ると，さすが大都市だけあつて，70 人程の一堂に集つた同志を見た。その室にはいつた時は甚だ心强く思つた。そして中にはアメリカでエスペラントを數年前に始めたといい仲々よくしやべり，又家では讀書もし，飜譯などをし，一方講習を開いている人々に出遇つた。益々力强く思つた。ところで若い人が殆どといつてよい位いないのは淋しかつた。そこで 14 人のアメリカから1938年度のロンドン萬國大會に出席した人々の中 7 人が立つて報告をした。驚いたことに全部がまるで申合せたように英語で話したことである。その晩 12-13 人の演說者があつたが私を除く外はタッター人のボストンから來た同志を除き全部がアメリカン・イングリッシュでしやべつていることである。散會したあとで一人の有能な同志が語つた。

「ニューヨーク市の エスペラント運動は 非常に困難である。

何故ならば，この市は餘りに刺戟が强すぎる。ダンス，映画，劇場，酒，飮食店，社交會，野球，フットボール，競馬其他澤山のスポーツ。その他めまぐるしい程澤山ある娛樂機關。それに加えて市で多くの無料の學術の講習會がある。エスペラントが無料だからといつて，特に人をひきつける力をもたぬ。しかもエスペラントをやつても口がみつかる譯でなし，ニューヨークなどよりも小さな娛樂機關の少ない田舍町の方がエスペラント運動がやり易いのだ。」

この人の語つたことはこの巨大なアメリカの文化が，何か一つの大きな力のために馬鹿にされてゐることを，感じない譯にはゆかない。多くのアメリカ人に遇つて見給え。彼等はそわそわしながら云う「私は忙しい。とても澤山することがある。讀書する暇さえない」と。

しかし，よくこの答えを考えてみて，更に問いつずけて見ると私達は彼等が——“Many things to do” (multajn aferojn por fari) とは，十回異つたものを見ても千遍一律の甘い映画を見に行くことであり，女友達とダンスをすることであり，ボキシングのラヂオに傾聽することであることを發見する。アメリカ

エスペラント版「大阪案内」
«Venu al Osaka»
海外需要について

大阪市役所でエスペラント版大阪案内書の計畫が發表されるや Praktiko, Heroldo de Esperanto 等の諸雜誌はその壯擧を賞讃した記事を書き，ついで早速激勵の手紙やハガキがドイツ，フランス，イギリス，イタリー等から，大阪市にまい込むと云う具合で，その幸先きは甚だ景氣のよいものであつた。

× × ×

その後昭和13年5月，遂に出梓されるや，全日本のエスペランチストから，數十通の申込みを受け當局を驚かせたらしい。

そして，2000部のうち500部は大阪市清掃課長山崎豐氏がローマの世界厚生會議に出席せらるゝに際し，持參され，各方面で多大の反響があつた由承つている。

× × ×

次に，直接大阪市觀光係宛海外から送付依頼ありたるものは次の通りで，殆んど全世界から申込みがあることは，エスペラントならでは達し得ぬ宣傳力を如實に誇示しているものといえよう。

尙，聞く所によれば「大阪案内」が出版されたことは，Praktiko, Informiloj de Esp-Asocio de Estonio, Heroldo de Esp. 等に發表されていた由である。Esp. 雜誌の殆んどすべてが，その出版を告示せざりしに不拘，かく多數の申込みありたるは全世界のエスペラント同好者達が如何に深く「日本」について關心を持つているかを裏書きするものである。

× × ×

この事實を前にして，吾々の考慮すべきことはエスペラントの今後の分野が無限に觀光事業に殘されていることである。

先年もわが國の某觀光ホテルが，英語で宣傳パンフレットを作成し，多數，アメリカの關係方面向け發表したるところ，事變關係で，アメリカの對日感情の悪化している際とて，そのうちの多數が，同ホテルへ送り返された由である。

以上二つの事實は國際觀光事業に大きな暗示を與えるものである。神戸市觀光課で御發行になつている "Kobe" の13年12月に外人觀光客のみた日本の感想として，特に日本の海外宣傳に對する感想として，『日本のパンフレット等も歐米諸國では獨，伊，佛等の大宣傳の蔭に隱されてしまつて容易に見つからないとゆう實情である』と述べているが，全くその通りである。とゆうのは獨，伊，佛等は全國力をあげて『觀光を通じての國威の宣傳』を實行している。その印刷物等の色彩の豐富にして美麗なることは衆目の見るところである。日本の觀光パンフレットが，歐米の觀光パンフレットとパリやベルリンの觀光案内所のパンフレット棚でカクチクするのは遠い未來のことであろう。

今後日本の國際觀光宣傳もその方法について一考を要するものがあろう。

日本觀光エスペラント協會宣傳部

のエスペラントは餘程しつかりしなければならない。

この困難の中で私の考え得ることは，アメリカに於けるエスペラント運動の方向を學校教育の中にエス語を持ちこんでゆくことに力を集注することが，最も捷徑ではないかと思う。アメリカの學校教育は，かなり自由だし，州市によつてそれぞれの自由な權限が與えられているから。

私がアメリカ滯在中最も嬉しく思つたのは，ザメンホフの filino Lidja Zamenhof がアメリカ各地で，彼女のもつニュースヴァリューと，個性的な魅力をもつて多くの人々をひきつけ，Ĉe-metodo で相當な效果を收めていることであつた。こうして，私はアメリカと同じように英語を——しかしキングス・イングリシュを——しやべる國，イギリスに渡つて行つた。 (Nov. 6, 1938)

エスペラント版大阪案内書の海外需要一覧表

（昭和 13 年月 12 日 1 現在）

國　　　別	大阪市觀光係宛海外より直接申込ありたるもの	同上送付部數
中　歐		
オランダ	36 通	83 部
フランス	30	56
ベルギー	16	38
ドイツ	4	15
チェツコスロバキヤ	1	2
ポーランド	4	6
デンマーク	4	13
ユーゴースラビア	1	3
スヰス	1	3
ブルガリア	2	18
ハンガリー	2	5
北　歐		
リトワニア	2	5
アイスランド	1	2
ラトビア	2	3
ノルエー	5	85
フインランド	1	3
スエーデン	2	5
南　歐		
イタリー	3	20
ギリシヤ	1	1
其　他		
アメリカ	4	11
イギリス	4	8
アルゼンチン	1	2
印度支那	1	2
計	128	389

川崎直一

冠詞について

その1

インド・ヨーロッパ語族の言語發達史をみると，冠詞の發生は比較的新しいことである。サンスクリットや古代ペルシャ語にはない。 古代ギリシャ語にはあるが，ラテン語ではついに獨立するまで發達し得ず，ラテン語の繼續であるフランス語，イタリヤ語，スペイン語になつてはじめて明確な形をとつてあらわれた。古代の言語形式をもつともよく保存しているリトワニヤ語やスラヴ系すなわちロシヤ語，ポーランド語，チェック語などには現在もないし（ブルガリヤ語だけには存在するが），ドイツ系すなわちドイツ語，英語，オランダ語，デンマーク語，スウェーデン語，などでもそれぞれ國語成立のころよりぼつぼつ發達しだしたのである。

冠詞の存在はインド・ヨーロッパ語族にのみかぎらない。ヨーロッパにあるが，インド・ヨーロッパ語族でないフィンノーウグリヤ語族中フィンランド語にはないが，ハンガリー語にはある。セミチック語族のアラビヤ語，ヘブライ語にはともにあり，その他アフリカ，アジヤ，アメリカの土人の言語の中にそれとおぼしきものが見出されるそうである。

冠詞のうちでも定冠詞の發達は不定冠詞に先立つのが普通であるが，定冠詞不定冠詞兩方いつもならんでいるとはかぎらず，定冠詞だけあつて不定冠詞のない言語や，不定冠詞だけあつて定冠詞のない言語もある。

	difina artikolo	nedifina artikolo
Gr F I H A G Ned Dan Sv Hun	estas	estas
Bul Ar Heb Esp	estas	ne
Novpersa	ne	estas
Skt Malnovpersa L R Pol Ĉeĥ Lit Fin	ne	ne

以上によつて esp-isto として考えさせられることは，1：冠詞は近代的，進歩的のものであること。2：ザメンホフの語つた言語すなわちロシヤ語，ポーランド語，リトワニヤ語には冠詞がなかつたこと。3：Plena Gramatiko の大著の著者の一人である Kalocsay がハンガリー人であること。4：ヘブライ語，ブルガリヤ語が Esp. と同じく定冠詞のみであること，など。

その2

定冠詞用法の一つに代表とゆうのがあり，Cox, Stamatiadis, Kalocsay の諸家みな La homo estas mortema（人とゆうものは死すべきものである）の例をあげている。この用法について Ekzercaro をみてみよう。

普通名詞	1 A	La botisto faras botojn kaj ŝuojn. 37/13
	1 B	Infano ne estas matura homo. 6/1
物質名詞	2 A	En la printempo la glacio kaj la neĝo fluidiĝas. 39/8
	2 B	Vitro estas rompebla kaj travidebla. 41/2
抽象名詞	3 A	Oni diras, ke la vero ĉiam venkas. 16/22
	3 B	Malfeliĉo ofte kunigas la homojn, kaj feliĉo ofte disigas ilin. 42/2

すなわちザメンホフには普通，物質，抽象いずれの場合も，つけてあらわしたときと，つけないであらわしたときとある。ここで問題が2つ起る。第1問。つけるのが原則で，つけないのでもよいのか？ つけないのが原則で，つけてもよいのか？ Beaufron, Commentaire, 1900 は「いつもつけるべきで，これがもつともよい規則である，だから英語流の冠詞用法はいけない」とした。Aymonier, Grammaire, 1918 も「つける，しかしながら klareco がそこなわれないかぎり，略してもよい，例：Vitro estas rompebla」. Grenkamp, Kompleta Gramatiko, 1930 もまた前者に同じ。以上に反して小坂狷二，冠詞の用法，Esp., 1933 aŭg. には「普通“犬は獣です”と云ふ場合はどの犬を連れてきても然りである故無冠詞 Hundo estas besto. でよい事前述の通り。然し“そもそも犬なるものは忠實なる獣なり”など，特に更まつた口調で云ふ場合は La hundo estas fidela besto と冠詞をつける‥‥抽象，物質名詞‥‥一般のもの(即ち不定)を指すには冠詞なしが普通‥‥然し代表單數になぞらへて‥‥ la を付けることもある」。

第2問。この代表の la は特定の la とまぎれやすいとゆうことである。石黒修，エスペラントの基礎，1934 は 1 A の例は代表に解しているが，La riĉulo havas multe da mono 37/19 は「(あの)金持は‥‥」と特定に解している。しかし Grenkamp は兩者とも代表と解している，すなわち「t. e. ĉiuj riĉuloj」と説明する。La diamanto havas belan brilon 40/10 を石黒は「このダイヤ‥‥」と特定に解し，小坂は別に Ekzercaro の註とは，はつきり斷つていないが，この同じ文章を「代表單數になぞらへて‥‥」Esp., 1933 aŭg. としている。いつたい Ekzercaro からとられたこれらの各例題は長い，まとまつた話中の一文章ではないので，解釋は兩者いずれにかぎるとはきめることができないから，Ekzercaro の解釋としては兩者とも同時に採用してさし

岡本好次

ザメンホフ文法術語研究 4

Adjektivo, numeralo, pronomo

8. adjektivo

十六ケ條文法の第三條には形容詞 (adjektivo) を取扱つている。それをみると次の如くである。

La *adjektivo* finiĝas per *a*. Kazoj kaj nombroj kiel ĉe la substantivo. La komparativo estas farata per la vorto *pli*, la superlativo per *plej*; ĉe la komparativo oni uzas la konjunkcion *ol*.

格 (kazo), 數 (nombro) 等の術語は名詞と同樣に使用する。これらについては前項名詞の所で說いた。

形容詞の語尾變化も deklinacio とよぶことも前項で說いた。

形容詞には比較法とゆうのがある。これを示すのにエス語では komparacio (Kalocsay-Waringhien の Plena Gramatiko にはこの術語を用いている) を用いる人があるがザメンホフは之を用いたことはない。ザメンホフは之を kompar(ad)o とゆう普通の語で代用している。そして比較法の等級を gradoj de komparado とゆう句で示している。その用例は

La *adverboj* finiĝas per *e*; gradoj de komparado kiel ĉe la adjektivoj. (十六ケ條文法第七條; FK. p. 255)

La gradoj de komparo estas distingataj per unu aŭ du punktoj metitaj super la nombro de la ideo, ... (FK. p. 266)

... adjektivojn, kiuj ne havas tiun aŭ alian gradon de komparado, tiun aŭ alian formon; ... (FK. p. 294)

Paul Fruictier の Kompleta Gramtiko もこの gradoj de komparo なる術語を用いている。

比較法 (komparacio) の中の gradoj をわけて比較級 (komparativo) と最上級 (superlativo) とにする。この兩術語は上の十六ケ條文法の中でも用いられているものでザメンホフの用いたものである。

形容詞の働き卽ち名詞又は代名詞を修飾限定することをザメンホフは次の如く表わしている。

La adjektivo difinas la substantivon aŭ la pronomon havantan sencon de substantivon kaj la adverbo difinas la verbon. (LR. p. 50)

普通形容詞として取扱うものは bela, bona 等々の如き物の性質狀態等を示すもので kvalifika adjektivo とよばれるものである。

エス語としてはこういつた形容詞の外に代名詞相關詞數詞等に形容詞の語尾 a を附加したものも形容詞の中に含めるべきであり又相關詞中 tiu, iu 等の如きや tia, ia の如きも形容詞の一種と見做すべきである。之等についてはザメンホフは形容詞として取扱つているものもあるが又別の品詞として取扱つているものもある。これらについては別の項で說明することとする。

つかえないと思う。

さて我々が自分で文章を書くときである。Beaufront のように強制的にいつも代表の la を使うことはザメンホフの用法にもそむき, Esp. 現在の一般用法にも一致しないし, 論理的に考えてもつけてもつけなくとも目的の思想は表現しえられるのだから, 文章の場合に應じて書き手に自由を與えるべきである, そうするとこの與えられた自由をどうこなすかが興味ある stilo の問題となつてくる。

9. numeralo

十六ケ條文法第四條には數 (nombro) に關係ある語について説明がある。卽ち

La *numeraloj* fundamentaj (ne estas deklinaciataj) estas: *unu, du, tri, kvar, kvin, ses, sep, ok, naŭ, dek, cent, mil.* La dekoj kaj centoj estas formataj per simpla kunigo de la numeraloj. Por la signado de numeraloj ordaj oni aldonas la finiĝon de la adjektivo; por la multoblaj—la sufikson *obl*, por la nombronaj —*on*, por la kolektaj—*op*, por la disdividaj —la vorton *po.* Krom tio povas esti uzataj numeraloj substantivaj kaj adverbaj. (FK. p. 254)

これによればザメンホフは數に關するすべての語を殆ど數詞 (numeralo) とゆう名でよぶつもりらしい。卽ち

fundamentaj numeraloj (基本數詞), ordaj numeraloj (順序數詞), multoblaj numeraloj (倍數數詞), nombronaj numeraloj (分數數詞), kolektaj numeraloj (集合數詞), disdividaj numeraloj (分數數詞), substantivaj numeraloj (名詞的數詞), adverbaj numeraloj (副詞的數詞) である。

猶ザメンホフは FK. p. 266 に fundamentaj nombronomoj, ordaj nombronomoj 等の術語も用いている。

數詞の用法については Ekzercaro §12, §14 に説いている。その他には餘り數詞については何も説いていないようだ。

文法的に考える時は unu, du, ... dek, cent, mil の十二個が眞の數詞 (numeralo) でその他は全部數 (nombro) に關係ある語であるが數詞ではなく他の品詞とみるべきである。

例えば nulo, miliono, biliono 等は名詞である。(これらを nul, milion, bilion 等の數詞として取扱う文法家もある)。唯ザメンホフは之等をすべて名詞として扱つている。

順序數詞 unua, dua, tria... 等は數形容詞 (numerala adjektivo) であり, obl, op, on 等の接尾字が數詞について出來るものもすべて別品詞であつて數詞とみない方がよいと思う。(例えば duobla は形容詞, duope は副詞, duono は名詞である。)

po のついた名詞を數詞と考える如きは猶更おかしいことは云う迄もない。(po の品詞については仲々むづかしいが。po を前置詞と考えれば前置詞＋名詞を數詞と考えるのは變である。)

ザメンホフの云う substantiva numeralo, adverba numeralo とゆうのは unuo, duo, unue, due 等をさすものと思ふ。それならばそれらはむしろ numerala substantivo (數名詞), numerala adverbo (數副詞) とよぶ方が穩當である。數名詞は名詞の一種であり數副詞は副詞の一種である。

日本語の數詞は名詞と考えることが出來るがエス語の數詞(基本數詞)は大體形容詞に類したものであるが形容詞の如く deklinacio をもたぬものであり多少ちがつた點もあるから一つの獨立した品詞卽ち數詞として取扱うのがよいだらう。

10. pronomo

十六ケ條文法の第五條は次の如く

Pronomoj personaj: *mi, vi, li, ŝi, ĝi* (pri objekto aŭ besto), *si, ni, vi, ili, oni;* la pronomoj posedaj estas formataj per la aldono de la finiĝo adjektiva. La deklinacio estas kiel ĉe la substantivoj.

代名詞 (pronomo), 特に人稱代名詞 (persona pronomo) についての法則である。人稱代名詞に形容詞の語尾を附加したものをザメンホフは上文の如く所有代名詞 (poseda pronomo) とよんでいる。

人稱代名詞所有代名詞についてはザメンホフは Ekzercaro 中では §16, §18, §20 に於て主として用例によつて示してゐる。Lingvaj Respondoj 中では p. 55-59 に於て詳しい解答を與へてゐる。

LR では ĝi を senseksa pronomo とよんでいることは既に述べた。(LR. p. 57). 又 vi を pronomo de ĝentileco とよんでいる (LR. p. 56) がこれの方は文法的術語とゆう程でないかもしれぬ。

人稱代名詞の第一第二第三人稱等の人稱なる術語には persono を用いることは云うまでもない。ザメンホフもこの意味に persono

を用いている。その例は FK. p. 290 に

Efektive, por kio ni bezonas apartan serion da finiĝoj por ĉiu persono kaj nombro, . . . ; se ĉiuj tiuj ĉi finiĝoj estas ja tute superfluaj, ĉar la pronomo, kiu staras antaŭ verbo, jam tute sufiĉe montras ĝian personon kaj nombron?

mia, via 等人稱代名詞に形容詞の語尾 a のついたものを上述の如くザメンホフは所有代名詞 (poseda pronomo) とよんでいる。又他の文法學者も多くはこの名稱を用いている。例えば Kalocsay-Waringhien 共著の Plena Gramatiko も la mia, la via 等冠詞をつけて posedpronomo (posesivo) とよんでいる。(尤も同書では mia, via 等を poseda adjektivo ともよんで即ち冠詞のつかぬものは形容詞とみている)。

併しこれは unua, dua の如きを順序詞とよぶよりも數形容詞とよぶ方が論理的であるのと同じく，これも代名詞形容詞 (pronoma adjektivo)とよぶ方がよいと思う。とにかく-a のついたものは代名詞としての機能とゆうよりも形容詞としての機能 (funkcio) をもつているとゆうべきなのだから。尤も mia, via が獨立して代名詞の樣に用いられる時もあるがそれは形容詞も名詞の代りに獨立して用いられる場合があるのと同じことで，それだけで，之を代名詞の一種とすることは感心しない。英語の如く人稱代名詞 I, you 等の所有格 my, your 等の他に, mine, yours 等特別の語があるものは，之は明かに所有代名詞とよぶべきであるが，エス語のはそうではない。尤も初等文法書(文法書とゆうよりも獨習書)に就て說明の便宜上順序數詞だとか所有代名詞とかゆう術語を用いることは差支えないが。

十六ケ條文法中には pronomo としては上記のもののみをのべているだけだがザメンホフは所有相關詞中の或るものをも pronomo としてよんでいる。即ち Ekzercaro §30 に

Ia, ial, iam, ie, iel, ies, io, iom, iu. La montritajn naŭ vortojn ni konsilas bone ellerni, ĉar el ili ĉiu povas jam fari al si grandan serion da aliaj pronomoj kaj adverboj.

と說明してゐる。又 LR. p. 60 に

La diferenco inter *kiu, tiu* k.c. kaj *kia, tia* k.c. estas sekvanta: la formoj kun *u* estas puraj pronomoj kaj la formoj kun *a* estas pronomaj adjektivoj signifantaj econ.

とのべ kiu, tiu 等を正眞正銘の代名詞 (pura pronomo) だとよんでいる。そして tia, kia を代名詞形容詞 (pronoma adjektivo) とよんでいる。

同じ樣な云い方をザメンホフは LR. p. 64 でも云つている。即ち

La vorto "neniu" (tiel same, kiel ankaŭ la vortoj "iu", "kiu", "tiu", "ĉiu") havas sencon pure *pronoman*, dum la vorto "nenia" (kiel ankaŭ la vortoj "ia", "kia", "tia", "ĉia") havas sencon *adjektivan* kaj esprimas *specon, karakteron* . . . (中略) . . . La formoj kun "u" enhavas en si ĉiam la ideon de nomo aŭ pronomo, dum la formoj kun "a" enhavas en si la ideon de adjektivo.

といつている。即ち u 類の相關詞を代名詞的の意味をもつてると考え a 類の相關詞を形容詞的の意味をもつていると云うのである。

又 LR. p. 64 に

Sed en tiuj du kolonoj, kiuj finiĝas per "a" kaj "o", la finiĝoj estas ne kondiĉe interrilataj, sed pure *adjektivaj* kaj pure *substantivaj*, kvankam ili, pro unuformeco, estas presataj en la vortaro kune kun la radiko (oni povus tamen tre bone presi ilin ankaŭ sen la finiĝo).

即ちこゝでは a 類の相關詞は便宜相關詞の中に入れているが之は純然たる形容詞の語尾をもつものであり，o 類の相關詞は純然たる名詞の語尾をもつものであるとする。このザメンホフの考えをおしすゝめれば，つまり前者は純然たる形容詞であり，後者は名詞なのである。尤も後者は名詞といつても意味からみて代名詞とみるべきである。(Wüster はそのEnciklopedia Vortaro 中で o 類の相關詞だけをこのザメンホフの意見に從つて語根と語尾とにわけて扱つている。そして名詞的代名

詞とよんでいる)。

ザメンホフが相關詞中に含まれている代名詞について述べたものはこれ位である。

即ちザメンホフは ia, kia, tia 等 a 類の相關詞は代名詞的の意味を含んだ形容詞と考え代名詞形容詞とよんでいるし iu, kiu, tiu 等の u 類の相關詞は純粹の代名詞とよんでいる。io, kio, tio 等の o 類もザメンホフは代名詞と考えているとみてよい。このザメンホフのよび方は文法的にみて大體妥當といつてよいが iu, kiu, tiu 等は又名詞の前におかれ形容詞の如き役目をするから,この形容詞の役目をする時は,代名詞形容詞とよぶ方がよい。(或はむしろ,これらは本來代名詞形容詞と考え,時折後の名詞が省略されて代名詞的に用いられるものと考えてもよい。)ies, kies, ties 等の相關詞についてはザメンホフは何とも云つていない樣である。これは語尾變化のない代名詞形容詞と考えられるものであるが普通の文法書では代名詞の中に入れている。

SAT 版 Plena Vortaro は a 類を adjektivo とよび o 類を pronomo とよび u 類を pronomo と adjektivo の二つの働きあるものとし es 類は nevariebla pronomo とよんでいる。而して i 列はすべて nedifina (不定) を冠し (つまり ia を nedifina adjektivo とよぶ) ĉi 列には kolektiva (集合)を冠し, ki 列には demanda (疑問) と relativa (關係) の二つの場合を考え, neni 列には nea nedifina (否定) を冠し, ti 列には montra (指示)を冠せしめている。(但し es 類にはこの形容語を用いていない)。

Lingvaj Respondoj では pronomo をわけて personaj pronomoj, refleksivaj pronomoj (再歸代名詞), rilataj pronomoj (關係代名詞), nedifinitaj pronomoj (不定代名詞)の四つをあげているが,この LR の分類はどれも杜撰であり且これは LR の編者がやつたのでザメンホフがやつたものでないと考える。故に之をザメンホフの術語とは考えないこととしたい。

數詞中 unu は代名詞に流用せられる。これは Plena Gramatiko でも Plena Vortaro でも nedifina pronomo の中に入れている。これは數詞から流用したものだから numerala pronomo とよんでもよいかもしれぬ。これについてはザメンホフは何もかいていない。

大阪大會豫告第2報

觀光地決定 第2日觀光地は,天下に名ある寶塚に決定。詳細は Informilo に。

市內觀光變更 第2班特別觀光バスは,燃料國策の見地から取止める。第1班觀光艇『水都』は發表どうり就航。第2班中止のため,第1班定員超過の見込みにつき,地方の方は,至急參加お申込みあれ。第1班定員超過の方は電氣科學館見物班に編入。

分科會會場變更 會場は,早稻田倶樂部を取止め,晝間の會場たる中央公會堂の食堂の各室を使用。

分科會追加: 佛教, ローマ字, 婦人, IEL.

學力檢定試驗: 全日本の E-istoj 待望の第1回學力檢定試驗(初級)が,第1日午後1時半-2時半に行われる。(詳細は次號で發表)。大會參加の同志はぜひ腕だめしに參加されよ。

參加費決定: 大會參加費 1.00, 晝餐會費 0.60, 記念寫眞代 0.50, 市內觀光費 各 0.50, 前夜晩餐會費 0.70 合計 3.30.

* 近郊觀光費用は Informilo で發表。

準備委員會: 委員長=前大阪外語校長中目覺先生御受諾。委員(追加)=草刈孟氏, 城戸崎ひな子夫人, 小田利三郎氏。

☆☆☆準備委員會では,目下全力を擧げて,本會をして眞に躍進日本におけるエスペラント大會たらしめるべく,あらゆる點で劃紀的な計劃を進めつつある。決定したものは,順次,本誌および Informilo で發表されるが,何よりの原動力は全國各地同志の積極的な參加によること勿論である。進んで速かに參加を申込まれよ。

(伊藤委員報)

伊藤己酉三

和文エス譯研究會

2

指導者　A 氏
會　員　B, C, D, E, F の諸氏

A: 之から第二回の會を始めます。今度も可成難しいですから充分お考え下さい。

問題 A は

この記念すべき年を終り，新年を迎えるに當り我々は種々の分野に於て時代を劃すべき大發展を豫想するのである。

です。では先づ「記念すべき」から。

D: memorinda が普通でしようね。

B: 「すべき」だから memorenda となる筈ではありませんか。

A: ～enda は devi esti ～ata で,「すべき」だけを考えれば end を用いるべきですが,「記念すべき」を memorenda とする必要があるか，どうか疑問です。私は ind でよいと思います。勿論 end を使つて誤りとゆうわけではありませんが。

C: 僕は memoriga か rememoriga かと考えていたのですが。

F: 私は rememorinda と思つていました。

A: memoriga jaro は jaro, kiu estas memoriga 或は jaro, kiu memorigas で，或事を記憶せしめる年であります。memorinda jaro は jaro, kiu meritas esti memorata で，その年を記憶している價値があるの意味です。rememori は思出すの意味ですから rememorinda jaro は思出される價値のある年で，似てはいますが同一ではありません。やはり memorinda が一番です。次は「終る」ですが，之は種々お考えがあることと思います。

C: fini が普通でしようね。pasigi も用いられましよう。

E: adiaŭi なんかも惡くないと思います。

B: foriri では。

D: 「終る」だけ考えれば何れもよいと思いますが，之等をどんな形で，文に入れるかが問題ではありませんか。

A: D さんの云われた通りです。では C さん，貴方は「年を終り」をどう譯されますか。

C: そうですね。fininte la jaron, pasiginte la jaron としたいのですが。en la fino de la jaro でもよいかとも思います。

F: fininte だと今は新年に入つていることになりますね。此處では年末と解釋すべきではないでしようか。そうすると finonte になります。

A: E さんと B さんは。

E: adiaŭante la jaron と思つて居りました。

B: 僕は kiam foriros la jaro とする積りでした。

A: F さんの御說の通り finonte となる筈でしようが, ni finas la jaron とゆう表現が可能でしようか。年は我々が終らせるものでなくて終るものですから, la jaro finiĝas とするのが普通でしよう。kristnasko finas jaron とゆうならばよいので，この場合の fini は「終りをなす」とゆう意味です。en la fino 又は je la fino ならよろしい。adiaŭante は次の「迎える」を bonvenigi とすれば關連して結構ですが，さもないと面白くないかも知れません。「**新年**」は nova jaro か novjaro 以外にありますまい。「**迎えるに當り**」はどうしましよう。之も澤山の言葉があるでしよう。

B: 僕は atingi を使つて atingante か okaze de la atingo としたいと思います。

F: Atingi は何だか變ですね。やつと新年になるとゆう感じです。同じ樣な言葉でも alveni の方がよさそうです。でなければ kiam venos la novjaro とするか。

E: 前の fino に對して komenco を使つて en la komenco とすればよいでしよう。

D: 一寸待つて下さい。en la fino, en la komenco では丁度大晦日から元日に移る午前零時の話になりますが，これはもう少し前でしよう。私は antaŭ la sojlo か antaŭ la renkonto を提出します。

C: 僕は atendante か akceptonte を考えていました。

A: 皆さんの御意見は皆夫々一理あります。この文では D さんの言われたように之からこの年を終つて新年に間もなく入ろうとする時と考えるのが至當で，從つて antaŭ la sojlo 又は renkonto, atendante 或は前に云つた樣に bonvenigonte, enironte 何れも用いられましよう。akceptonte は少し變ですが。では次に移つて「**種々の分野**」に就て願います。

F:「種々の」は diversa の一途と思いますが。

B: diferenca ではいけませんか。

A: diferenca は「不同の，違つた」の意味ですから此處では駄目です。やはり diversa でしようね。

C:「分野」も kampo の外にないでしよう。

D: sfero があります。

A: kampo と sfero は必ずしも同一とは言えませんが，この場合は何れでもよろしい。

B:「**時代を劃すべき**」は epokfaranta でいゝでしようね。

E:「劃す」だから fari でなくて partigi ではありませんか。

A: いや，partigi は部分々々に分かつことです。普通は epokfaranta ですが，私は epokfara の方が適切と思います。英語では epock making であるからといつて -ant- を付ける必要はないでしよう。「**大發展**」を願います。

C: granda progreso.

D: granda disvolviĝo の方がよくはありませんか。

F: granda disvastiĝo とゆう譯も辭書にあります。

E: 私は disvolviĝo がよいと思います。

A; やはり disvolviĝo ですね。progreso は「進歩」，disvastiĝo は「普及」の意味で，「發展」といふ場合に用いられ得るのですが，發展とゆう語の一部分を表すと考えられる。種々の分野に一大發展（展開といつてもよろしいが）を豫想するとゆうこの文では disvolviĝo がピッタリするようです。disvoli は巻いた物を擴げることで，disvolviĝo は例えば繪卷物を繰擴げると絢爛たる場面が展開される樣に，發展して新しい段階に達することです。最後に「**豫想する**」ですが。

B: antaŭsupozi か konjekti をとります。

C: 僕は atendi, esperi でよいと思う。辭書にもあります。

D: anticipi とゆうのもありますが，私としては antaŭvidi としたいのです。

A: esperi ; atendi は「期待する，そうなつて欲しいと思う」です。anticipi とゆう難しい言葉は必要でない時は成可く使わない方がよいと思います。例えば日本語でも文章語と日用語とあつて混同してはおかしなものですが，之と同樣でその文の性質によつて用語を選ぶ必要があります。

さてこの文の構成は殆んど問題がないでしようが，「……に當り」をどうするか種々お考えがあるでしよう。大體前置詞とするか，分詞副詞形をとるか或は kiam... とするかでしよう。どれがよいとお考えになりますか。

E: これは難しいですね。私にはわかりません。

D: 結局間違つていなければどれでもよいのではないでしようか。

A: そうゆうことになるようですね。では皆さんの譯文を頂いてみましよう。

先づ B さんのを御披露に及びます。

Okaze de la fino de tiu ĉi memorinda jaro, kaj alveno de la novjaro, ni antaŭvidas epokfarajn kaj grandajn disvolviĝojn en diversaj kampoj.

D: 成程達者なものですね。恐入りました。

E: disvolviĝojn と複數にする方がよいのでしようか。

A: 單數ですね之は。他には申分ありません。次はCさんのを

Nun, ni antaŭvidas grandan disvolviĝon por fari novan epokon en diversaj kampoj, finiĝonte ĉi tiu memorinda jaro kaj alvenonte la novjaro.

F: por fari は kiu faras としなければいけますまい。

B: finiĝonte... の形は之でよいのでしようか。jaro を jaron としなければいけないんではありませんか。

A: いや, このまゝなんです。しかし, この形はエスペラントでは採らないのが普通です。英語ではよいのですが。分詞副詞を使う時はその動詞の主語が文の主語である場合です。

次はDさんの譯です。

En la momento, kiam finiĝas tiu ĉi memorinda jaro kaj venos nova jaro, ni jam antaŭvidas epokfaran grandan disvolviĝon en diversaj kampoj.

立派な譯ですね。

E: jaro の後の方を略した方がもつとよくなるんではありませんか。

A: そうですね。その方がいゝかも知れません。では本題は之で終りとしましよう。私はこんな風に譯して見ました。

Nun, kiam tiu ĉi memorinda jaro estas forironta kaj ni baldaŭ eniros en la novan, ni antaŭvidas grandan disvolviĝon epokfaran en diversaj kampoj.

問題 B は

貴方の重なる御親切に對しては何ともお禮の申上げようが御座いません。

ですが, 易しいものでしよう。まず「重なる」ですが, 之は「かさなる」で「おもなる」ではありませんよ。

B: ripetata つまり繰返へされたと考えます。

F: 僕は ofta か multfoja としたいのですが。

D: 實際はどうだかわかりませんが, 度々のと考えないで二度のと考えるのが普通じやないんでしようか。そうすると refoja とすればよい。

C: 實は僕は「おもなる」だと思つて grava がいゝんではないかと思つていました。

A: 重なるでは何度かわからないわけですが, Dさんの言はれた樣に refoja でよかろうと思うんです。multfoja でもよいでしようが, ripetata は一寸失禮な言方ですね。では次へ。

E: 「御親切」は種々ありますね。bonkoreco, afableco, komplezo 等。

D: その何れかでよいわけですね。

A: 皆さん一寸氣が付かれないかも知れませんが, bonkoreco, afableco 等は抽象名詞なんです。所が refoja とか ofta とかゆう言葉を付けるとなると, この御親切は抽象的事柄では變で, 御親切な事柄と解釋しなければなるまいと思うんです。ですから afablaĵo 卽ち親切の表れた事柄としなければならないでしよう。

D: それは氣が付きませんでしたが, その通りですね。

A: **「何とも御禮の申上げようがない」**は之だけを纏めて願いましよう。

E: 種々譯し方はあるんでしようが, mi ne scias kiel vin danki では。

C: estas nenia rimedo esprimi dankon は駄目ですか。

D: 駄目ではないと思います。唯 rimedo はどうでしよう。不似合な感がしますが。私は mi ne havas taŭgan vorton por esprimi mian koran dankon としてみました。長過ぎますか。

A: 長過ぎることはありません。丁寧に言うには長い方が簡單過ぎるよりはよいでしよう。

B: こんなのはどうですか。mi ne povas sufiĉe danki は。

A: 成程, いくら感謝しても充分には感謝出來ないとゆうわけですね。しかし理窟を言へば ne sufiĉe には danki 出來ることになりますね。原文からするとやはり E さん D さんの譯がよいのですね。そうするとこの問題は結局次の譯に落着くわけです。

Mi ne havas taŭgan vorton por esprimi mian dankan pro viaj refojaj afablaĵoj.

Mi ne scias kiel esprimi mian dankon por via multfojaj afablaĵoj.

danko は dankemo とすることもよく行われます。又 danki には por でも pro でも兩方用いられていますが, 理窟からすると pro の方がよさそうです。

では今日は之で終りとしましてまた來月どうぞ。

TONDRO 氏——progreso en diversaj direktoj は種々の方向へ向う進歩になる。例えば marŝi en la direkto de Tokio.

R. F. 氏——evolucio は進化である。例えば Darvina evoluciismo.

Konisi-Norio 氏——ĉe は前置詞であるから kiam としなければならない。

增田氏——ke 以下に動詞がない。prospero は「滿足すべき狀態」である。

M. M. 氏——fako は科學, 文學, 工業, 商業等の一部分である。

幸田福雄氏——kiam は副詞的相關詞であるから, 前置詞 en は不要。他にもあつたが epokfarinda は意味なし。

形星氏 —— bonkori なる動詞はないから bonkorado とゆう語はない。denovaldonita は感心しない。

Ronda Monto 氏——amasiga bonkoro は bonkoro, kiu amasigas で意味なし。

プロシオン生氏 —— plenigi は變です。respondi とすべし。

S. S. 氏——viaj とあれば la は不要。

Taihoku Kong 氏——ne havas ajn kian は havas nenian とすること。

成績發表

A. a. Kei'ĉjo, 旭風, 打狗一郎, Higre-Toĝi, 二倉平治, Matuda.

b. Haruko, ミミ, ミノル, 河村義三, Nohara-Nobuko, Seinoske, Vaporo, Sen'Ok, ヤマイシ キサン, 田中正美, 井手尾元治, SOPIRO, Hoajaan 島崎敏一, Meteor, Yama-R.

c. M. M., ——, Konisi-Norio, R. F., Tondro, M. Inaba, TIMUR, Tonĉju, Y. S., Kato, E. Mijazaki.

ĉ. 幸田福雄, 增田, Soldato.

B. a. Ruĝa Planedo, Esperantisto, 紗那子。

b, プロシオン生, 岩元正雄, 渡邊憲忠, 田中一郎, H. Soj, 村上優雨, 柚木武史, Morgenroete, 上山政夫, Spongokuko, Seiu Sogen, Midori, イマキヒデヲ, Maeda-Teiji.

c. Taihoku Kong, S. S., Ronda Monto, 形星, マイダヨシオ, Ueda-Masao, 戸田鐵雄, Tomi, Ĉelo, S. Todoroki, 山本功二, 永江清。

新課題 ・四月號發表・

A. 政府の計劃している國民再組織は支那事變勃發以來實施されている國民精神總動員運動の强化を目的としたものである。

B. 失禮ですが誰方でいらつしやいますか。何處かでお目にかゝつたように思いますが, お名前を思出せません。

規定 制限: A, B いずれか一方を採んで應募すること。(兩方へ應募したばあいは A の分を無効にする)。

氏名: 誌上での匿名は自由であるが, 原稿には, 必ず住所氏名明記のこと。

用紙: ハガキまたはハガキと同じ型の紙。

締切: 2月5日着便。

宛名: 學會内「和文エス譯」係。

小坂狷二

前置詞略解 38

XXII SUB (其二)

3【狀況,條件下】 **Sub** は『影響下』の意より其の影響束縛を受けたる狀況下，條件下に在ることを示す。

Volu min sciigi, *en* kia *formo* kaj **sub** kiaj **kondiĉoj** li deziras tion fari. 彼はどう云う形式で又どんな條件（の下）でその事をしたいと思つて居るのでしようか。

Sub certaj **cirkonstancoj** oni donas permeson. 事情によつては許可あり。

La knabinoj dancis **sub la muziko** sendita de Alfred. A 氏の贈物の音樂につれてダンスをした。

Lia animo restis vigla **sub la ripozo** de la korpo (=dormo). 身體が休まつてゐる(夢寢の)間にも(その條件下でも)魂は活潑であつた。

〔註〕『眠の影響下でも』の意で狀況の sub を用いたもの。本當の睡眠（時間）中は *dum* dormado, 眠つていて(狀態)笑うなどは rideti *en* la dormo.

La branĉoj preskaŭ rompiĝis **sub** (**la pezo** de) multego da fruktoj. 夥しい果實の重荷で枝も折れんばかり。

Ŝi ridetis **sub larmoj**, kiuj fluis sur ŝiaj vangoj. 頰を涙にぬらし乍らほゝえんだ。

Sub seruro promesojn tenu, sed doninte ne reprenu. 約束と云ふものはしつかり鍵をおろして置け（やたらに人に與えるな),然し與えたら之を取り戻すな(約束を破るな)。

La homo aperis sur la trotuaro **sub** la strio da **lumo** fluanta el la magazeno. 商店から流れ出ている一道の光を浴びてその人道の上に姿をあらわした。

4【造語】 (a) **Suba** 下の; **sube** 下に; **sub**ulo 部下，下僚 (superulo に對す); **sub**aĵo (服の)裏地 (=subŝtofo), 下地 (=fono); **sub**igi, **sub**meti 屈服さす，降參さす。

(b) 下の位置: **sub**tera 地下の; **sub**tegmento 屋根裏部屋 (=mansardo); **sub**vesto 下着; **sub**teni (下で)支える, 支援する; **sub**porti (荷重など)支えて擔う; **sub**skribi (本文の下に)署名する; **sub**iri 下る，(太陽などが)沒する; **sub**akvigi 沈める; **sub**akviĝi 沈む。

(c) 下位: **sub**oficiro 下士官; **sub**leŭtenanto 少尉; **sub**majstro 職人。

(ĉ) (かくれて)內證に，ひそかに，不充分に（下位の程度で)(〔注意〕(b) 參照): **sub**aŭskulti 立ち聞きする，ぬすみ聞きする; **sub**rigardi ぬすみ見をする，上目を使う (=spioni); **sub**ridi クスリと笑う，ほくそ笑む; **sub**levi la ŝultrojn 肩をすぼめる(肩を一寸そびやかすのは不滿輕侮を表示する所作)。

Kiel talipo li **sub**fosas kaj **sub**mordetas. 彼はモグラの樣に人の足元(の地下)を堀つて根を嚙る（ひそかに人を倒そうとする）陰險な奴だ。

Li tradandis en la vojo la monon; nun li sidas kaj **sub**tiras la voston kaj ne flamiĝas: 奴は道中で有金を派手に

まき散らしたので今では部屋にしけ込んで，尻尾を巻いて(へこたれて)しよげ切つて居る。

Zorge mi sublevis la vestaron, por ke ĝi ne malsekiĝu. 着物がぬれぬ様に裳をつまみあげた。

Liaj okuloj subpleniĝis de sango. 眼が血走つていた。

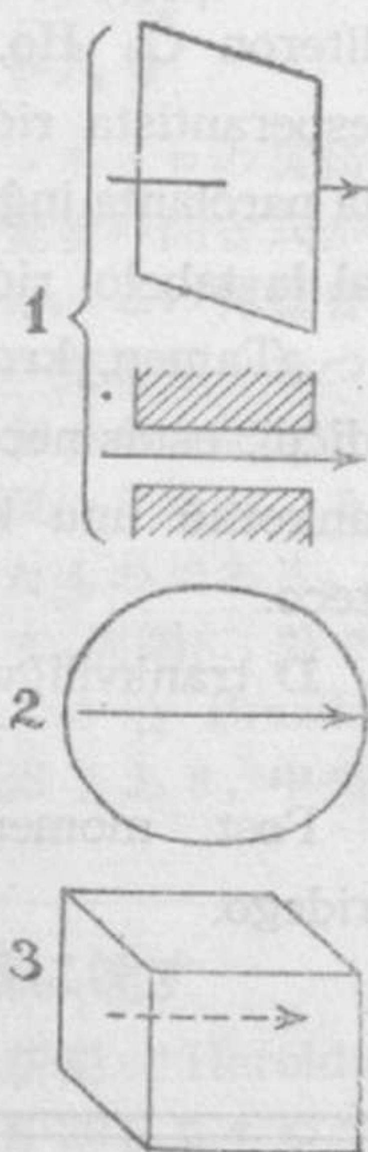
作文練習 XIX

1. 叔父さんの手に育てられ，お前と私はいとこどし，三つ違いの兄さんと，云うて暮して居るうちに。
2. 雷鳴の時高い樹の下に立つのは危險。
3. その案は pazigrafio の部類に入るべきものだ。
4. どうして君は鼻先(目前)の出來事に氣が付かなかつたのだ。
5. 御擔任の級の進み具合は如何。
6. 日本エス學會主催普及講演會。
7. 酒の上で云つた事なのだろう。
8. 萬事好都合にすらすら運びました。

XXIII TRA

1【貫通，通り抜け】

Tra の第一義は『(面や孔)を抜けて，通して』。



Tra la fenestro vaporo iras sur la korton. 湯氣は窓をくゞりぬけて，庭へ出てゆく。

Tra unu orelo eniras, **tra** la alia eliras. 一方の耳から入つて他方の耳から出て了う（何を云われても平氣の平左），馬の耳に念佛。〔諺〕

Ŝi elŝoviĝis **tra** la fenestro. 彼女は窓からからだを乗り出す。

La knaboj fajfis **tra** la fingroj. 少年達は指を口にくわえて口笛を吹いた。

Murmuri **tra** la dentoj. (表向きには反抗しようとはしないで）口の中で文句を云う(歯を通してつぶやく)。

La soldatoj kondukis la arestitojn **tra** la stratoj. 兵士は囚人をつれて往來を通つて行つた。

Tra vitro de teruro pligrandiĝas la mezuro. 憶病の眼鏡をかけて見れば小僧も入道。〔諺〕

2【通過】『(或る地域)を通過して，過ぎつて(至る)』。

Mallarĝa vojeto kondukas **tra** tiu kampo al mia domo. 野を過ぎつて小徑がついて居りそれをゆくと私の家へ達します。

Se ni eĉ supozos, ke fina lingvo de la estontaj generacioj estos ne Esperanto, en ĉia okazo la vojo al tiu ellaborota lingvo nepre devas konduki **tra** Esperanto. よしんば假に未來子孫の結局の言語がエスペラントでないと云うことにしても，矢張その將來完成せらるべき言語に到達する道は必ずやエスペラントを經て達せらるべきものに相違ない。

Du ekbriloj de fulmo trakuris **tra** la malluma ĉielo. 電光が二た條(すぢ)暗夜の空をつんざいた。

〔注意〕(c) 地區をこちら側から向う側へ通り抜けて了はなくても，その地區『の中を通つて（行きつゝある)』場合でも『(幾分難を排して)通過』の氣持を强

調して tra を用いてよい(この意より次の『押しわけて進む』や『行き渡る』の意が出る)。

Ili iris dum tri tagoj tra la dezerto kaj ne trovis akvon. 三日の間も砂漠を通つて行つた (*en* la dezerto より も強し) が水が無い。

〔昨年中の重要正誤〕

號	頁	欄	行	誤	正
一	23	左	4	造り出す。	造り出す
〃	24	右	7	るから de	る, 依て de
二	36	右	31	依つて per	倣つて per
〃	38	右	24	ja mastro	la mastro
三	19	左	14	unufajrero	unu fajrero
四	17	左	26	povas	ne povas
〃	〃	右	10	何にして	何にでも
〃	〃	〃	21	れの歌を	の歌を
六	26	左	20	malbone	malbone)
〃	〃	右	27	の次行に『19. 君宛に手紙が來て居る』を入れ, 以下番號を送る。	
八	19	左	17	adoron	odoron
九	14	左	2	又は目	又は物を目
〃	16	右	6	sufice	sufiĉe
〃	〃	〃	7	sur nia	super nia
十	25	左	33	al vi	la aĉetaĵojn al vi
〃	26	右	25	pro lia	pro sia
十一	24	右	23	punata	punataj
十二	21	左	24	aŭdis lian	laŭdis lian
〃	22	右	2	la oper-	la aper-

Ĝemo de komencanto

Estante tro okupita eta komercisto, kaj ĉiam komencante Esperanton denove eklerni, kiam la Revuo Orienta vizitas mian butikon, mi sekve restas eterna komencanto kaj ĝemas hontante, dum aliaj semas kaj semas konstante.

その komencanto のぶんざいで, Z 祭の席上うつかり引受けて, うかつに elbuŝi たのが事もあろうに Forgesu Zamenhofon とゆう大言壯語。それが私共の moto たる Estu fidela al Zamenhof に合致するとゆう世迷言みたようなものですが, うまく logiko が合わぬ。誤解をまねきやすい放言でしたからこゝに謹んで前言を取消します。Jen mi ĝemas hontante. けれども, いつも ĝemas とゆうわけでもなく, たまには ridas 事もあります。即ち……

Foje en esperantista kunsido, fervoja inĝeniero klarigas pri kvar necesaj kondiĉoj por nia fervojo.

Malantaŭ li vidiĝas tabelo, sur kiu sin trovas kvar grandaj ordaj literoj: ABCD.

Aperas aranĝanto kaj ŝteliras malantaŭ la dorson de l' entuziasma parolanto. Alglui ĝas sur la ordan literon D ia paperslipo, sur kiu oni tuj vidas literon Ĉ. Ho, ve al D! Eksplodas esperantista ridego. Mirigita pro tio, la parolanta inĝeniero turnas la vizaĝon al la tabelo, ridas kaj daŭrigas:

„Tamen, krom tiu kvar ABCĈ-kondiĉoj, estas necesa por nia nuna fervojo ankoraŭ unu kondiĉo—nome komforteco.

D trankviliĝu!"

Post momento..... eksplodas dua ridego.

(Kosugi-Ĵ.)

LA REVUO ORIENTA

Februaro 1939 Jaro XX N-ro 2

男女エスペラント俳優急募

M.G.M. 超特作映畫にエスペラント會話の場面

クラレンス・ブラウンの力作

アメリカ最大の映畫會社 M.G.M. の超特作映畫の一部分にエスペラント會話が入れられることになり，そのためのエキストラ採用のテストを，例のシェーラー氏が依頼されたとゆう話――作品は，クラレンス・ブラウン監督・ノーマ・シャラー，クラーク・ゲーブル共演「愚者の歡喜」……………………………

秀作「南方飛行便」や，最近では，新春を期して封切りされる，ガルボ，ボワイエ共演の大作「征服」，そのほか，非常にすぐれた作品をたくさんに持つハリウッド第一流の監督クラレンス・ブラウン氏は，數年前から，輸出映畫へエスペラントを導入することを望んでいたが，いよいよ，その宿願を達し，目下製作中の「愚者の歡喜」(Idiot's Delight) に，エスペラント會話の場面を入れることにした。この，世界最初の企畫に備えて，メトロ・ゴールドウィン・メーヤー會社では，ハリウッドの男女エキストラ中から，エスペラントを話し得る者を募つたところ，忽ち應募者35人を得た。これに對し，アメリカ・エスペラント協會會長シェーラー氏を聘してテストしたところ，そのうち，ほんとうにエスペラントを知つているのは3人，それもごく初等者であつたが，35人のうちから，種々テストのうえ數人を採用し，直ちに練習にとりかかつた。

内幸町大阪ビルの M.G.M. 東京支社では語る。「Idiot's Delight は『おろか者の歡喜』と假譯していますが，まだ製作中であり，輸入制限の關係で輸入できるかどうか不明です。」

世界最初の多色日付消印

しかもエスペラント入り

昨年10月22日リオ・デ・ジャネイロの美術宮で，第1回國際切手蒐集博覽會の開會式が行われたが，ブラジル政府では，この博覽會に適しい企劃をして，世界中の蒐集家をあつといわせた。それは，世界最初の多色記念日附印を作つたことで，その種類は3種類，うち1種はエスペラントを用いたものである。エスペラント日付消印は2色で，周圍に，黒で Internacia Filatelia Ekspozicio ☆ Brazila Poŝto ☆ Rio de Janeiro 1938 とあり，中央に綠星がはいつている。

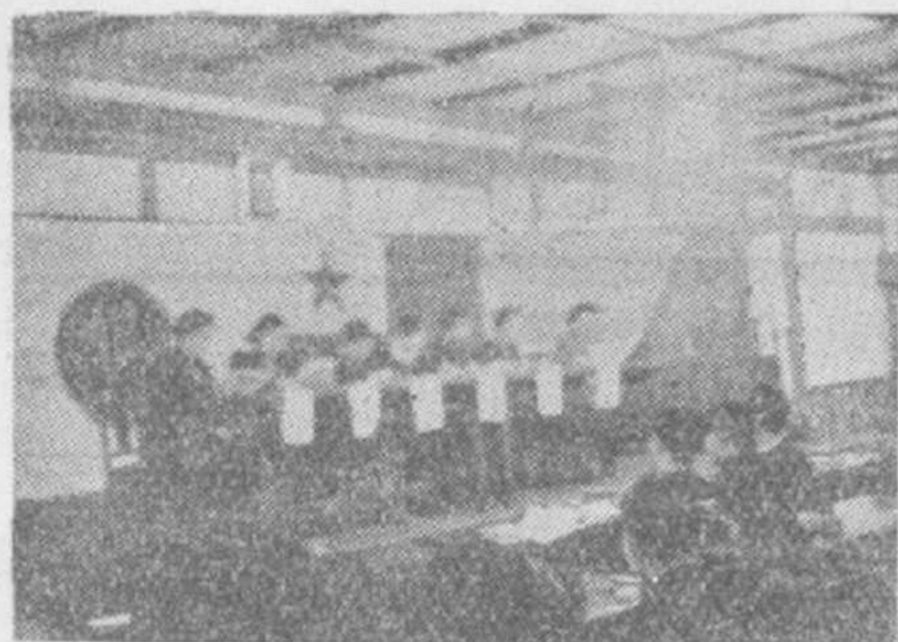
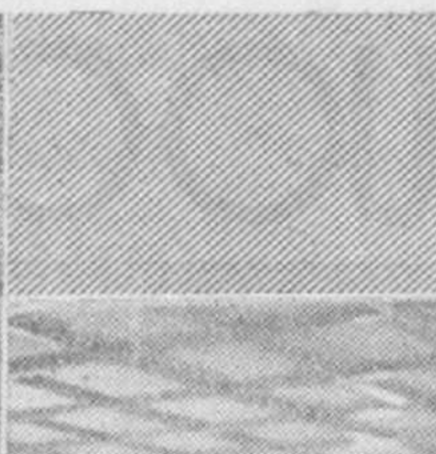
ヘロルド誌 1000 號に達す

エスペラント界唯一の週刊新聞 "Heroldo de Esperanto" は，昨年11月20日をもつて1000號に達した。ヘロルド誌は，Teo Jung 氏によつて，大戰直後の 1920 年11月20日に "Esperanto Triumfonta" の名で創刊され，その後，いろいろの變遷があり，特に1936年，ドイツのエスペラント運動禁止に際しては，危く廢刊の憂目を見そうであつたが，ついにあらゆる困難に打ちかち，ここに 1000 號を迎えたことは慶賀のいたりである。

「教育とエスペラント」會議

參加者 1500 人

アムステムダムの「教育とエスペラント」局では，昨年11月5日，ハーグ最大の會場，動物園大會堂で，「教育とエスペラント」全國會議を開いたが，これに對する參加者は，國内各地から 1500 人に達し，學校へエスペラントを採用することについての熱意を示した。


左：「風の中の子供」
右：土岐氏講演

Honoron al la Majstro

☆各地ザメンホフ祭☆

・東　京・

〔東京エスペラントクラブ〕日時12月15日鐵道クラブにて。主催TEK及FER. 出席者105名。司會者石黒捷三郎氏。1 君ケ代齊唱。2 皇居遙拜。3 皇軍の武運長久祈願默禱。4 Espero 齊唱。5 開會の辭——佐々城佑氏。6 講演——土岐善麿氏『ダンチヒ大會前後』。7 TEK報告——石堂淸倫氏。8 脚本朗讀『風の中の子供』——日本エスペラント婦人聯盟東京グループ。9 講演——川原次吉郎氏『隨想』。10 休憩10分間。11 獨唱，笠松エト子孃 "O suno mia", "Sankta Luĉio". 12 合唱——ロンドハルモニア有志（安井義雄，坪井英夫，石川道彥）"Kanto de l' ligo" "Tilio" "Lulkanto de Brahms". 13 全員合唱練習 "Gloron al nia Zamenhof" 指揮安井義雄氏。14 名士挨拶——山田貞元，山鹿泰治，小杉重太郎，多羅尾一郎，山崎弘幾，福富義雄の諸氏。15 閉會の辭——伊藤武雄氏。16 "Tagiĝo" の齊唱。散會。當日は5種類の受付が出された。1 入場者受付。2 TEK 賛助員受付。3 小坂賞基金受付。4 OBG 協會入會受付。5 TEK 調査表受付。當夜同志賀川書店及學會の2ケ所の書籍賣店が出て賑つた。『風の中の子供』抄譯は万澤まき子孃。配役は三平＝井伏貞子孃，善太＝柏原ひで子孃，母親＝金子葵孃，父親＝笠松エト子孃，刑事＝齋藤久子孃，巡査＝矢次とよ子夫人。解說＝万澤孃。猶，TEK 賛助員に就いては次號報道欄の通りだが，小坂賞基金は當夜16名53口26圓50錢集まつた。（石川）

・大　阪・

〔大阪エスペラント會〕12月15日午後7時から「早稻田クラブ」で開催。參會者46名。

SUR LA ĴURNALISMO

新聞雜誌とエスペラント

新　聞

大阪朝日（阪神版）12. 6. 「私の研究室」欄に「理想の言葉•機緣は二葉亭の「世界語」——神戶中央郵便局員島津次雄氏」——日本の文學に現われたエスペラントの例と，ポストニコフ氏のことについて，隨筆。

信濃每日 12. 8. 「エスペラント人氣」——フランス，スエーデン，フインランドのエスペラント熱について簡單に紹介。

大阪朝日 12. 14. 「ザメンホフ祭」豫告。

九州新聞 12. 17-18. 「時局とエスペラント——神尾碧堂」——支那事變に對するエスペランティストの活躍，エスペラントの言語としての國際性，外國語との關係，その將來等。

中外商業 12. 19. 「ラヂオ劇『霧の中』花の巴里で放送•山本氏，親善の心意氣」——旣報のエス譯『霧の中』をフランス語で再演のことを，エス譯本寫眞，山本氏肖像と談話入りで大々的に報道。



貫名氏の司會で開會。兒島氏の malferma saluto に次いで Espero の合唱。Presidanto の saluto は Zamenhof の historieto について語り，それに續く進藤氏の elokventa legado と共に，一同 Esperantujo に居る感を深くした。當日の specialaj paroladoj として，大先輩中目氏並に小笠原氏より有益な御講演を聞くことが出來，一層我々 Esperantisto の責務重大なることを自覺した。Gastoj として神戸より月本氏，宮本氏，並に京都より中原氏を迎へ一層此會を prospera にして載いたことを感謝しなければならない。memora fotografado の後 amuzaj horoj に入り，兒島，村田，山本氏等によつて Komedio "Mallerta violonisto" が演ぜられ，humora atomosfero に一同打興じ，新進の川俣，大和田両孃の poezio の朗讀，小泉氏の獨唱等，定刻を過ぎること 30 分餘，9時40分來年のザ祭に於ける revido を約して散會した。

(Kunvena-komitatano 報)

向つて左側の卓中央和服＝川崎，その左中原，川崎氏の右相坂，中目，一人おいて，金，相坂氏の背後月本，右へ藤間，城戸崎，小笠原，進藤，貫名，1人おいて城戸崎ひな子夫人，3人おいて黑崎，2人おいて宮本，黑崎氏のまえ檜皮，右へ桑原，伊藤，檜皮氏から左へ上月，横垣，村田，進藤氏のまえ松田，右蹲んだの兒島の諸氏。

•札　幌•

〔札幌エスペラント會〕札幌に於ける第10回ザメンホフ祭は12月14日午後7時より明治製菓ホールに用かれた。當日は朝からの猛雪で夕方までに 70 糎餘の新雪が降り積り，交通機關も杜絶しがちであつたので，參會者の少きを心配したのであつたが，この夜を待ちこがれていた同志達は全身雪にまみれながらも續々と集つて來たのであつた。

出席者26名，S ro 長田，永見，栃内，佐藤，前田，岡田，新田，田中，藤原，仁岸，木村，高瀬，相澤，小鹿，福原，水野，情野，秋田，田中，廣川，F-inoj 村山(靜)，村山，本田，白川，中村，成田。

定刻，相澤氏開會を宣し，君ケ代合唱，宮城遙拜，皇軍將士に對する武運長久の默禱あつて，聖戰下ザメンホフ祭に一脈の緊張味を

九州日日 12. 21.「大牟田エス會ザメンホフ祭」——會の狀況詳報。(中川年男氏報)

雜　誌

文化金剛石 11月號「嵐の後に來るもの(或る外人の日本觀)——山田弘」にメゼイ博士のエス文「日本印象記」の內容紹介。

金剛石 1月號「商道商心」欄に，山田氏，エス語使用世界一周旅行者について。

地理時報 11月號「世界語の分布」に，1937年初における狀況(アロイスフイッシャー調査)中，エスペラントは第8位に，支配語としての分布一千萬とある。

國民思想 12月號「日本エスペラント運動の諸問題——石堂清俊」——最近1ケ年の日本エス運動概觀，エスペランティスモ，新エスペラント主義確立の必要，現實に立ちて等。

興正 12月號「國語擁護歌——富士太郎」——外國語の濫用を誡めた歌に，「附言」して「日本人同士は日本語で，外國人とはエスペラント一式で」を說く。

現わし，續いて "Espero" の合唱，高瀬札エス會長の挨拶，色とりどりの自己紹介があり，木村氏の "Historio de Esperanto" の一節の朗讀に前半を終つた。次ぎに amuza parto が恒例のようになつたエスペラント福引によつて賑やかに幕は引かれた。今年は donaco も奮發し，迷文も苦心しただけあつて面白いものが多く爆笑また爆笑の連續であつた。福引が終つて "Al la fratoj" の合唱があり，あとはお得意物の披露が續々とあつたが，特に白眉とされたものに木村氏の "Marŝo Patriota"，"Tilio" 他一回の女聲合唱，前田氏の「土と兵隊」のエス譯の一節の朗讀などが喝采を博した。

かくて雪の夜のザ祭の集いはますます高潮に達し，いつ果てるともなく思われたのであつたが，10 時近く "Tagiĝo" の合唱によつて拍手裡に閉じられ，參會者一同は折から降りやんだ雪明りの美しい街頭に，今日の日の來り，今日の日の終つたことを祝し喜びあつて散つていつた。

・名古屋・

〔名古屋エスペラント會〕 12 月 15 日金剛石會館に於て，19 時 30 分金子氏司會のもとに開會。

1. La Espero を力強く合唱。
2. Ĉefa komitatano 白木氏の挨拶。
3. 1938 年を回顧して金子氏の挨拶，小坂氏の名古屋在住，26回大會，由比氏滿洲國入り等々縷々として述ぶ。
4. 由比忠之進氏の手紙朗讀(金子氏)。
5. Sinprezento: 18 名交々たつてユーモラスな自己紹介をなす。
6. 白木氏の尺八演奏――本會隨一の才人であり好々爺である白木氏の秘戯公開。
7. 山田弘氏の漫談――大辻司郎以上との定評がありました。
8. Oratora Parolado: 竹中氏先づ La impreso de Norda Ĉinujo なる temo で，續いて丹羽氏 Mia Espero，最後に村上氏 La Signifo de Ossaka-premio.
9. Kantado: 高松氏，小坂由須人氏合唱，歌は小坂先生新譯の Longe vin atendas mi (*Joimaĉigusa*).
10. NES總會――委員の改選別記の通り。
11. 寫眞撮影，La Tagiĝo の合唱。

以上を以て 22 時 30 分閉會。

(*Y. Murakami*)

向つて左から〔前列〕丹羽，高松，竹中，村上，白木，內藤，〔中列〕2 人目淺野，右から 2 人目金子，〔後列〕左端小坂由須人，右から松原，宇佐見諸氏。



・富山・

〔富山エスペラント會〕 12月12日午後6時半より渡部隆志氏の宅で，參加者 12 名。馬場氏開會の辭，ついで司會のもとに自己紹介，Paroladetoj, diskoj を聞き，飲み，食い，大いに談じ，五艘氏お得意の麥屋節を聞く。氏の名調子は，ぜひ全國の同志にお聞かせいたしたいところ，渡部氏の閉會の辭，"Tagiĝo" の合唱で，會を閉じる。(岩杉)

・熊本・

〔熊本エスペラント會〕 熊本のザメンホフ祭は，12 月 14 日夕，神尾病院で開催，參加者10名。太田氏は，車えび養殖の話を，神尾碧堂會長は，自作陶磁器について，趣味深い話を，磯崎巖氏は，地方同志のまだ見ぬ japana Zamenhof 小坂先生の俤を各エスペラントで話し，ついで餘興の福引に入つた。福引はつぎのような國策向きや，戰時色のもの。

1 等 Al la paco Orienta kaj por la bono de l' homaro servas—ja panoj. (パン)

2 等 Bravaj soldatoj kuraĝe eltenas batalon—sen veo. (煎餅)

3 等 Ho teruraj bataliloj eksplodaj—bomb'onoj. (ボンボン)

なほ，このザメンホフ祭について，その前夜熊本放送局 JOGK でニュース放送のとき豫告された。(加藤報)

・長崎・

〔長崎三菱倶樂部文藝部〕 長崎における昭和13年度ザメンホフ祭は12月17日18時より今町三菱社宅に於て三菱倶樂部文藝部主催の下に開催され，醫大，高商及び市內在住の同志を招待した。主催者側より三菱倶樂部員11名出席し，招待者側より19名の參會者を得，合計30名に達し甚だ盛會を極めた。18時より晩餐を共に食後下記プログラムに依り會を進む。

開會の辭 主催者側，富松氏
エスペーロ合唱 一同
エスペランチストの使命 招待者側，植田博士
私とエスペラント 江口氏
醫大に於けるエス運動 茅野氏，田中氏
自己紹介
餘興 ラジオ風景：エス語の普及狀態 井手尾氏外6名
ハムレット朗讀 濱邊氏，柿本氏
齊唱：Rozeto en Herbejo 外1曲 松下孃外4名
福引
其の他 Dekok-aĵo 澤山飛入りありたり
タギージョ合唱 一同
閉會の辭 主催者側，濱邊氏

昭和13年度の最後を飾るに相應しい盛大な會合で一同歡を盡し22時30分解散した。因に三菱倶樂部文藝部では每月今町社宅に於てエスペランチストの集合を催しエス語に關する知識を培養して居ます。一般部員の御參加を歡迎します。（井手尾）

・大牟田・

〔大牟田エスペラント會〕 12月17日19時於丸屋。會する者新舊會員15名，特に警察署川島外事係官を招待し，記念撮影後下記の如く開會，晩餐を共に歡談をつくした。

1. 開會の辭
1. 植田會長挨拶
1. 小坂賞寄附金に就き說明勸誘，西原氏。
1. 想い出感想發表

各樣のエスペラント觀が述べられたが，中でも，岡田氏は榮轉にからむ椅子珍談エス語學習笑話に一同を笑倒させ，荒木氏のエス語



向つて左から——前列：西原，植田會長，植田會長令孃，上野孃，荒木，鹽山の諸氏。後列：久保，淺井，柴田，川島，井上，中川，倉本，岡田の諸氏。

より見たる東西言語學一くさりに又感歎し，鹽山氏の米國旅行英語失敗談とエス語効用談の Ŝerca rakonto に爆笑し，20時喜びの中に會を終つた。

尙當エス會は來年より每月第3火曜日夜エス語研究會を開くことになつた。（久保平季）

・行橋・

〔行橋エスペラント會〕 15日午後7時から豐守氏宅に於てザメンホフ祭を催した。會する者は只4人だつたが皆熱心なものばかりで，これを機會に久しく絕えていた會合を月二回第一と第三木曜日に，主として會話の練習することに申合せた。また行橋エス會よりの出征エスペランチスト及轉住の先輩諸兄へ寄せ書きを送つた。（鮎川常基）

・宮崎・

〔學會宮崎支部〕 學會宮崎支部主催のザメンホフ祭は市內丸山町の集山氏邸で，17日午後7時から開催，來會者12名，巴心太氏司會の下にエスペーロ合唱，集山氏の開會の辭（エスペラント）に始り總會（第2回）に入り，集山氏議長に推薦され，事業報告を杉田氏，會計報告を寺澤氏夫々簡略に述べ，役員選擧となり評議員に日野，杉田（正），中川，大坪諸氏重任，幹事に集山，山下氏重任，寺澤，福田氏新任された，提案として支部存續，香港中村重利氏へ感謝の寄せ書，KEL 大會を明後年招待する件，小坂賞の件を議した。次いでザ祭に移り福田氏の處女演說「ザメンホフ小傳」は大成功であつた，やがて集山氏夫人及其令妹の心盡しのスキヤキ宴となり，談笑裡に散會したのは11時頃であつた。

（巳心太）

東　京

東京地方ロンド便り

フロント・ロンド 11月27日に古利根ハイキングコースを歩いて晩秋の武蔵野を探つた。參加者9名。例會は毎週火曜日午後7時より廣小路の明治製菓2階にて。テキストは"Patro revenas"で輪讀をやつている。常時參加者7名位。責任者は足立區伊藤谷本町14番地根本安太郎氏。

FER 毎週木曜丸の内鐵道クラブにてザメンホフ讀本がテキスト。輪讀を午後5時から6時迄。6時から7時迄は會話練習會。12-3名出席する。初等講習は毎週月水金午後5時から6時迄。講師は小松文夫氏，出席者10名。丸の内鐵道クラブにて。同じく初等講習，錦糸町鐵道クラブにて。短期講習讀本を用いて講師は高橋菊藤氏，出席者6名。毎週火金午後5時より7時迄。

二つの趣味の會

山の座談會 12月1日非常に山を好む有志に依り，本年中の山の經驗と想出とを語る座談會が持たれた。出席者は16名。中5名はF-ino, 2名はne-esperantisto. 石川委員の司會に依り，増田英一氏の志賀高原の想出，百瀬博氏の湯澤ゲレンデ雪崩の想出，等に始まり淡々として盡きず，山と雪とに對する鍛錬の心構えが强調され，將來TEK内山の會結成等が語り合われた。

Saniga Kunsido 12月10日午後7時より上野勇屋にて本年納めの會を持つ。參會者15人内2人遙々横濱より馳せ參ぜらる。皆々元氣の好いところを發揮大いに歡を盡して10時散會。尙S.K.の產みの親石黑喜久雄君の武運長久を祈る寄せ書きを令兄捷三郎君を通じて戰地の同君に送る。今後も責任者は瀧野川區中里町277上田嘉三郎氏が續けられる。

（石川）

東海道

〔名古屋エスペラント會〕 過ぎ去つた1938年度はN.E.S.にとつて誠に多事多端の1ヶ年であつた。先づ小坂先生を名古屋に迎えて氣勢大いにあがるや今年度大會を引受け，大會準備の繁忙を極める間に行われた初等講習會，續いて10月の大會，由比氏の滿洲國入り，大會後の殘務整理等々，文字通り多忙な1938年度であつた。現在，相當活潑な働きをして居るN.E.S.も嵐の後の靜かさと言うような感をあたえるものがある。

☆輪讀會　毎週月曜日白木氏宅に於て，講師は金子美雄氏，teksto は「エスペラント童話讀本」，現在（12月11日）第3章講義中です。

☆研究會　毎週金曜日小坂氏宅に於て，講師は小坂狷二氏，teksto は"La Revizoro".

☆本會の機關紙"La Ora Delfeno"1938年度第4號は12月11日發行。

☆初等講習會開催豫告　期日は昭和14年4月頃の豫定，詳細決定次第追つて發表。

☆N.E.S. 委員改選　12月15日ザ祭當夜のN.E.S.總會に於て決定，下記の通り：委員長＝白木欽松，常任委員＝金子美雄，竹中治助，高松重光，丹羽正久，村上幸雄，磯部しづ子，以上の7氏。磯部氏をのぞいて他は全部留任。

(*Y. Murakami*)

東　北

〔盛岡エスペラント會〕 終に又總決算の機がやつて來た。最後が最後迄，弱音を吹き通さねばならないとは，何と興醒めた情無い姿であろう。餘りにも試錬に惠まれ過ぎた1年である。坂下，安本，工藤，淺田，松木，林，と，次から次へ，多くも無い anoj を失つて，MER の rizejo は荒れて行つた。

大川氏が在り，松木氏來り，自らも推して居た amuzaĵa-estaĵo の快男子，佐藤氏等も rondsidi して，安本孃が開く alilandanoj からの donacaĵoj やら leteroj に balilado の華を咲かせた頃の，彼の harmonio. 今何處にありや！

「言うだけ」「誓うだけ」そんな慘めな姿は，もう犬に喰はせてしまつた。華々しい前途は，もう當分，お預けだ。只，只，私達は，出來るだけやつて行く。力の限り，根限り戰つたなら思い殘すこともあるまい。（岩本）

個・人・消・息

新博士2人 福岡の福原滿洲雄氏は，理學博士（東京帝大）に，東京の河田三治氏は工學博士（東京帝大）になられた。

小坂賞基金千圓に迫る

小坂賞基金に對する寄附は，先月に引きつゞき殺倒，12月27日現在882圓，すでに寄附を申込まれて未收のものを入れれば，900圓を超過している。あと1938年を4日殘し，さらに新年にも幾分まわるものとみて，約一千圓に達するみこみである。

うち大口は學會の600口300圓であるが，これは，12月の役員會において，小坂氏に對する感謝の微意として支出を決議されたものである。

今月も，あるいは中支戰線から，あるいは北滿國境守備陣地からの寄附があり，父子，兄弟，母子相攜えて寄附されるものがあり，また，旭川，東京，名古屋，大阪，大牟田，宮崎の同志はザメンホフ祭を利用して募金され，大牟田の如きは79口を集められ，また發議者大阪エスペラント會では，會員各自の寄附の他に，會として40口を寄附された。

一應の締切を12月末日と定めたが，その後の寄附も勿論よろこんで迎えるから，機會を逸せられたかたは，今からでもよろしい，どうかお申込みいただきたい。

小坂賞委員會

小坂賞基金寄附者芳名（2）

12月1日から同月27日まで

——受付順〔敬稱省略〕——

		ロ
福岡縣	鮎川常基	3
名古屋	宇佐見義一	2
〃	矢崎富美人	6
馬山	原田友彦	2
東京	岩下守四郎	20
〃	岩下順太郎	10
福岡縣	堀内恭二	1
大阪	藤間常太郎	20
京都	柴山慶	2
廣島縣	山田盛雄	1
大阪府	池川淸	1
臺北	宗像勝太郎	4
大連	加來武雄	2
滿洲國	狩俣寛榮	3
東京	石堂清俊	10
大阪	宮本正男	2
東京	島津德三郎	2
名古屋	磯部しづ子	1
〃	田中六藏	10
開城	石宙明	2
東京	萩原孝德	4
大阪	俣野四郎	4
東京	江上不二夫	10
名古屋	竹中治助	3
岐阜	小澤孝一郎	1
大阪	竹内潮	2
前橋	上田正雄	10
滋賀	山本佐三	2
青森	川關巖	2
東京	山崎弘幾	6
〃	石黒捷三郎	2
中支軍	石黒喜久雄	1
東京	高橋菊藏	1
〃	山田貞元	3
〃	三石淸	1
〃	蒲生英男	2
〃	鹽川茂久	2
〃	伊藤武雄	2
〃	高見宏	2
〃	鈴木秀雄	2
〃	沓木威夫	1
〃	根本宜侚	2
〃	三石五六	20
浦和	大島完一	1
東京	鈴木辰雄	5
〃	笹原茂三郎	5
靜岡	飯塚傳太郎	1
群馬縣	島崎敏一	2
〃	島崎まつ子	2
千葉縣	山崎誠	2
大牟田	淺井時夫	2
東京	森山稔	2
名古屋	加藤精一	2
東京	井伏太郎	1
〃	井伏貞子	1
〃	川原次吉郎	10
〃	伊藤己酉三	10
〃	萬澤まき子	10
〃	逸名氏	6
12月18-9日ころ受領（芳名お知らせください）		
濱松	佐藤繁治	2
北海道	小森政雄	1
兵庫	月本喜多治	20
久留米	寺崎敏行	1
室蘭	三崎豐市	2
大阪	松田勝彦	2
〃	大阪エス會	40
名古屋	村上幸雄	2
〃	高松重光	2
大連	森原圭二	4
東京	荒井保正	1
名古屋	眞山政之	4
三重	林好美	2
松阪	丸山正一	2
北海道	岡垣千一郎	4
八幡	横井領郎	6
岐阜	川口玄昌	2
靜岡	上山堪子	10
旭川	川名正二郎	2
〃	木津義雄	2
〃	田中正義	2
〃	當摩憲三	2
〃	安達利比呂	2
〃	森脇實雄	2
〃	竹吉正廣	2
〃	菅原信義	2
〃	松原喜代治	2

東京	増田英一	2
西宮	上谷良吉	2
長野縣	栗林亨	2
福岡縣	秋武六一郎	6
長崎	井手尾元治	2
滿洲國	由比忠之進	40
宮崎	中川勝八	3
金澤	松田周次	8
東京	久留幸男	5
〃	高部益男	5
〃	柏原ひで子	1
〃	根本潔	2
靜岡	木村延雄	2
東京	磯部幸子	6
茨城	大石和三郎	20
東京	中川健一	2
千葉	鈴木正夫	6
福岡	Isiga-Osamu	2
神戸	橋詰直英	2
朝鮮	高允鑽	1
弘前	谷山弘藏	6
茨城	神島祐光	2
金澤	齋藤實	1
岐阜	渥美樟雄	5
靜岡	田中仙太郎	1
〃	小長井たか子	1
長崎	高見和平	10
札幌	永見正夫	1
金澤	矢德秀男	1
熊本縣	佐藤秀太郎	5
桑名	五井義雄	10
名古屋	松井不朽	2
〃	山田弘	15
桑名	五井修	5
名古屋	山中弘江	1
〃	金子美雄	10
〃	丹羽正久	2
〃	內藤爲一	3
大阪	谷垣琢磨	15
佐賀縣	久佳久	6
大牟田	植田半次	20
〃	上野歌子	4
長崎	植田高三	10
大阪	岡林眞冬	1
大牟田	倉本敏	3
〃	岡田啓基	4
富山縣	岩杉正一	2
福岡	福原滿洲雄	3
島根	田部信	2
京城	吳智燮	4
〃	岡本好次	10
東京	川村信一郎	10
奉天	尾花芳雄	5
名古屋	西田英夫	20
富山	渡部隆志	5
〃	ババヤソマツ	1
橫濱	鈴木靜雄	2
高松	宮崎英一	5
熊本	加藤孝一	2
奈良	宮武正道	2
宮崎	學會支部	20
堺	綱谷金次郎	4
佐賀縣	溝口勇	4
福岡	大島廣	6
東京	三宅史平	10
神戸	宮本新治	10
別府	麻生介	4
岡山	吉永義光	2
大阪	橋田慶藏	2
愛知	小澤武雄	1
札幌	木村喜壬治	1
神戸	櫻尾俊一	2
和歌山	橋健二	2
新潟	鐵道エス會	10
大連	川上虎男	4
久留米	速水信宗	2
朝鮮	北原二郎	4
臺北	越中浩	1
埼玉	本田光次	2
神戸	島津次雄	2
日本エスペラント學會		600
	計	1,405
	×	.50
		702.50
	前回分	179.50
	累計	882 圓

〔公　告〕

エスペラント運動後援會

第三年度寄附者芳名（敬稱略）

自10月27日至12月20日

3圓　千葉　鈴木正夫
2圓　東京　三ツ石五六
（計7圓）
2圓　東京　林本榮二

10圓　名古屋　白木欽松
3圓　東京　比留間恭平
5圓　東京　淺田一
（計8圓）

2圓　東京　伊藤武雄
3圓　東京　矢次とよ子
2圓　福岡　大島廣
1圓　名古屋　山中弘江

計　33.00圓
前月迄　817.77圓
合計　850.77

毎月一回一日發行　エスペラント　第七年第二號

昭和十四年一月十日印刷納本
昭和十四年二月一日發行

編輯兼發行人　大井學
印刷人　竹田佐藏　東京市神田區三崎町二ノ四
印刷所　一匡印刷所　東京市神田區三崎町二ノ四

定價一部20錢・送料5厘
6月分1圓20錢・送料共
1年分2圓40錢・送料共

發行所　財團法人日本エスペラント學會　東京市本郷區元町1丁目13番地4　振替東京11325　電話小石川5415

★第27回日本エスペラント大會★

參加申込書

1. 氏　名（フリカナツキ）……………………………………
2. 職　業（或イワ學校名）……………………………………
3. 住　所……………………………………………………
4. 滯在豫定　　日間
5. 宿舍申込　有・無
6. 前夜懇親晩餐會　出席・不出席
7. 第2日觀光　參加・不參加
8. 所屬エス會……………………　JEI 會員（會員外ノ方ワ消スコト）

★送金內譯（小爲替ワ・準備委員會事務所宛／振替貯金ワ・大阪 94502 番ヘ）

送金方法……………………小爲替・振替（不要ノ方ヲ消サレタシ）

A.	參加費	1圓 00錢
B.	晝餐會費	60錢
C.	記念寫眞代	50錢
Ĉ.	市內觀光費	50錢
D.	前夜懇親會晩餐費	70錢
E.	寄附金	圓　錢
	計	圓　錢

★御願イ：送金ワ振替ヲ用イラレタシ。（拂込用紙ワ郵便局デクレマス）ナルベク10日前迄ニ御拂込ヲ。ソレ以後ワ郵便局ノ「受領票」ヲ當日受付ヱ御持下サイ。參加申込者ワ同時ニ參加費用ヲトリマトメテ御送金下サイ。

郵便は



準備委員會

御中

き
が

大阪市西區靱(ウツボ)南通り一丁目一〇番地

日清生命館　大阪早稲田倶樂部氣付

第二十七回日本エスペラント大會

御注意

振替貯金の拂込をなさるときは表面※印の欄に夫々記入し之に現金（又は郵便爲替證書、振替貯金拂出證書、小切手）と次の割合による料金（郵便切手）とを添へて郵便局（小切手による拂込の場合は特に指定した郵便局）へお出し下さい

壹圓迄	貳錢
五圓迄	四錢
拾圓迄	六錢
五拾圓迄	八錢
百圓迄	拾錢
五百圓迄	拾五錢
千圓迄	貳拾錢

千圓を超ゆるときは其の超過額千圓迄毎に五錢を加ふ

通信欄

氏名（フリカナツキ）＿＿＿＿＿＿

職業＿＿＿＿＿＿

住所＿＿＿＿＿＿

滯在豫定　　日間　　前夜懇親會

宿舎申込　有・無　　出・欠

第2日觀光　參加・不參加

所屬エス會名＿＿＿＿＿＿

★送金內譯

A.	參加費	1圓00	錢
B.	晝餐會費	60	錢
C.	記念寫眞代	50	錢
Ĉ.	市內觀光費	50	錢
D.	前夜懇親會晩餐費	70	錢
E.	寄附金	圓	錢

計　　圓　　錢

各票記載事項に間違のないことをお確め下さい

局番
號印

拂込票

口座番號: 大阪九四、五〇二番

加入者氏名: 第二十七回日本エスペラント大會準備委員會

※ 一金

拂込人住所氏名 ※

口座所管廳日附印

受付局日附印

金額を訂正したものは受付を致しません

一年保存

金額以外の記載事項を訂正した場合は相當證印して下さい

拂込通知票

口座番號: 大阪九四、五〇二番

加入者氏名: 第二十七回日本エスペラント大會準備委員會

※ 一金

拂込人住所氏名 ※

受付局日附印

口座所管廳日附印

文字は正確明瞭に一、二、三、十の數字は壹、貳、參、拾とお書き下さい

振貯九號甲

※印の欄は拂込人に於て記入して下さい

LA REVUO ORIENTA
Monate eldonata de
Japana Esperanto-Instituto
Japanujo, TOKIO, Hongo-Motomati
Abonkotizo: 4 jen.

財團法人日本エスペラント學會
東京市本郷區元町一丁目一三
振替東京一二三二五番
電話小石川五四一五番

昭和七年一月十二日 第三種郵便物認可
昭和十四年一月十日 印刷納本
昭和十四年二月一日發行（毎月一回一日發行）
「エスペラント」第七年 第二號
定價二十錢（送料五厘）